

市人口推計報告書

川西市における人口の動向と今後の見込み

令和4年(2022年)10月

川西市

*** 目 次 ***

1 川西市における人口の推移	1
(1) 全市人口	1
(2) 年齢構成	3
(3) 地区別人口	4
(4) 国籍別人口	6
2 人口動態の状況	7
(1) 自然動態（出生・死亡）	7
(2) 社会動態（転入・転出）	10
3 将来人口の推計結果	14
(1) 推計方法と条件	14
(2) 全市推計結果	16
(3) 地区別推計結果	18
(4) 国籍別推計結果	27

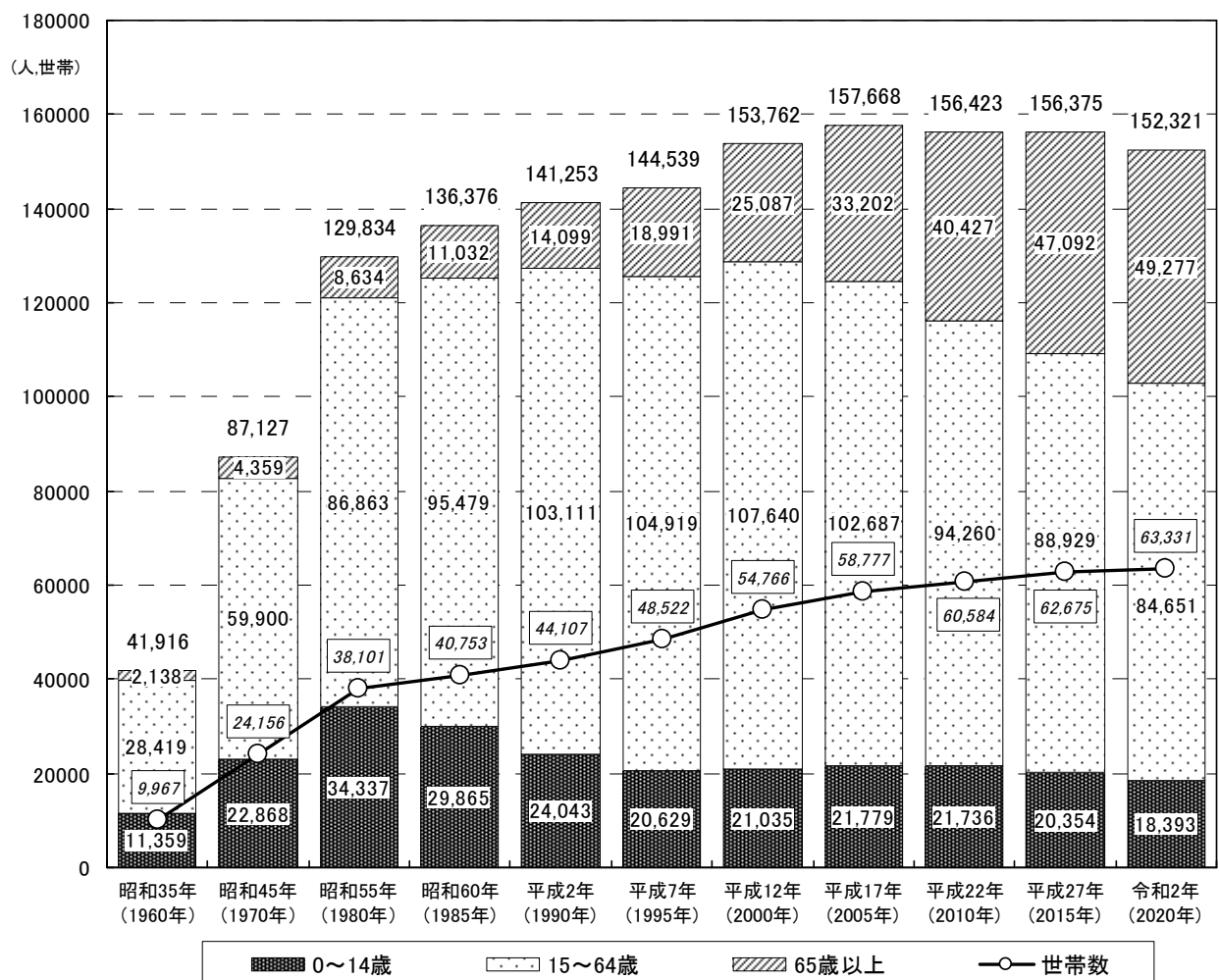
注釈) 各グラフの数値について、少数点以下を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

1 川西市における人口の推移

(1) 全市人口

- 川西市は、昭和29年(1954年)に市制を施行し、7,490世帯、人口33,741人(住民登録人口)でスタートしました。昭和40~50年代の大規模住宅団地の開発に伴って人口が急増し、平成17年(2005年)まで一貫して人口は増加しました。
- その後、人口は横ばい状況となるなか、平成21年(2009年)に158,026人(推計人口)のピークを迎えましたが、近年は緩やかな人口減少傾向へ転じています。
- 0歳から14歳までの年少人口は、昭和55年(1980年)には34,337人を数えましたが、その後は減少し、現在は約2万人規模で推移しています。また、65歳以上の老年人口は年々増加し、昭和35年(1960年)から令和2年(2020年)までの60年間で実に23倍の増加となっています。

国勢調査による人口・世帯数の推移

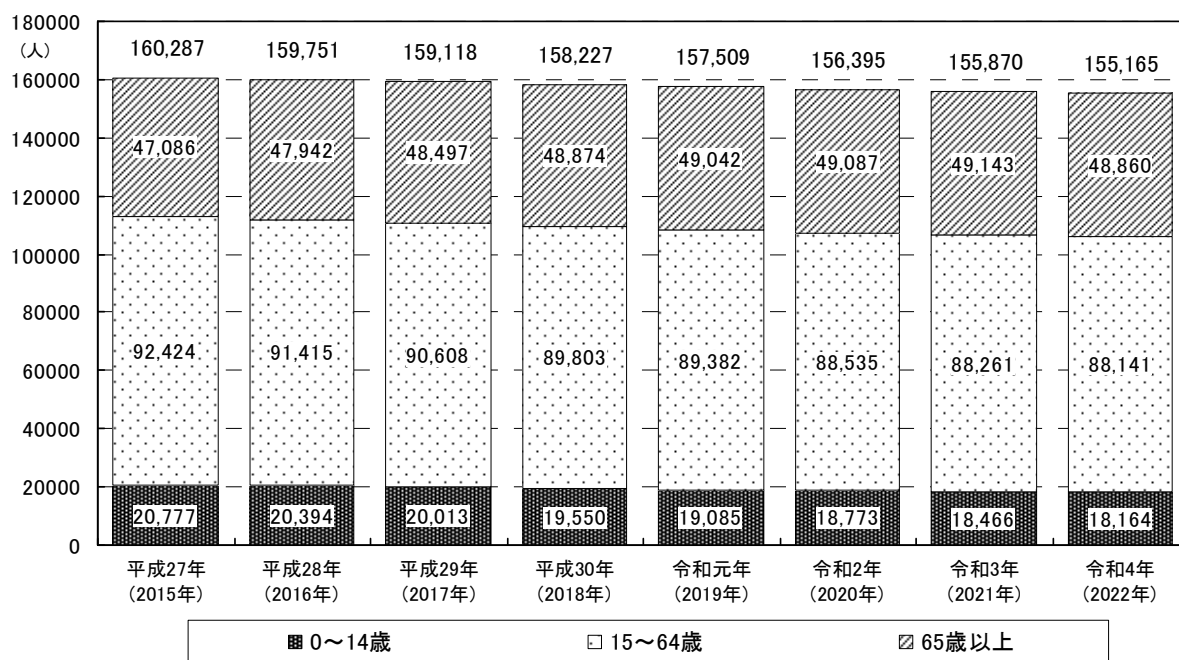


資料：国勢調査(年齢不詳人口については、按分して各年齢区分に含めている)

○平成27年(2015年)以降の人口の推移を住民基本台帳人口ベースで見ると、1年あたり約730人の緩やかな減少傾向にあります。

○年齢階層別にみると、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口は一貫して減少を続けており、平成27年(2015年)から令和4年(2022年)にかけて年少人口は2,613人、生産年齢人口は4,283人の減少となっています。一方、65歳以上の老年人口は、1,774人の増加にとどまっています。

住民基本台帳人口による人口の推移

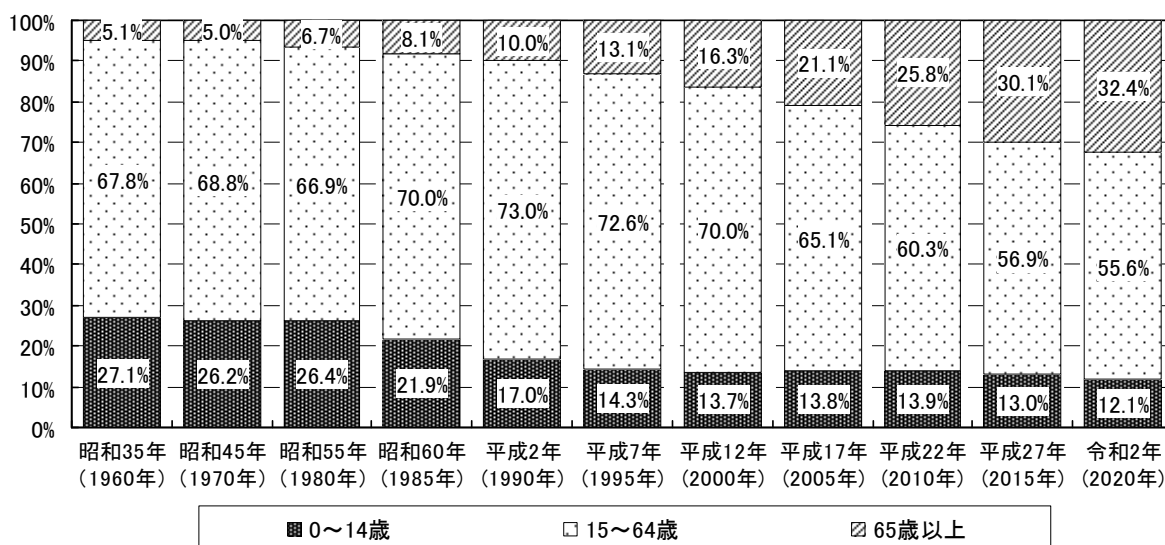


資料：住民基本台帳人口（各年9月末現在）

(2) 年齢構成

○昭和35年(1960年)以降の年齢構成の推移を国勢調査ベースで見ると、0歳から14歳の年少人口の割合は平成12年(2000年)以降13%台で推移していましたが、令和2年(2020年)には12.1%と低下しました。一方、65歳以上の老年人口の割合(高齢化率)は一貫して上昇しており、令和2年(2020年)には32.4%に達しています。

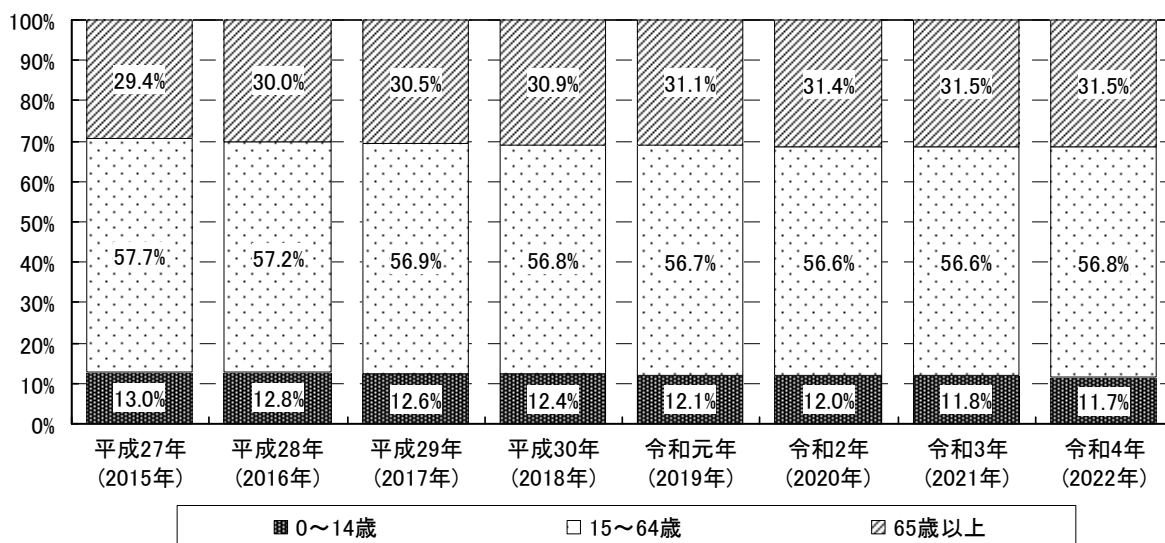
国勢調査による長期的な年齢構成の推移



資料：国勢調査

○平成27年(2015年)以降の人口の推移を住民基本台帳人口ベースで見ると、65歳以上の老年人口の割合(高齢化率)は緩やかに上昇し、近年は横ばい状況となっています。

住民基本台帳人口による近年の年齢構成の推移



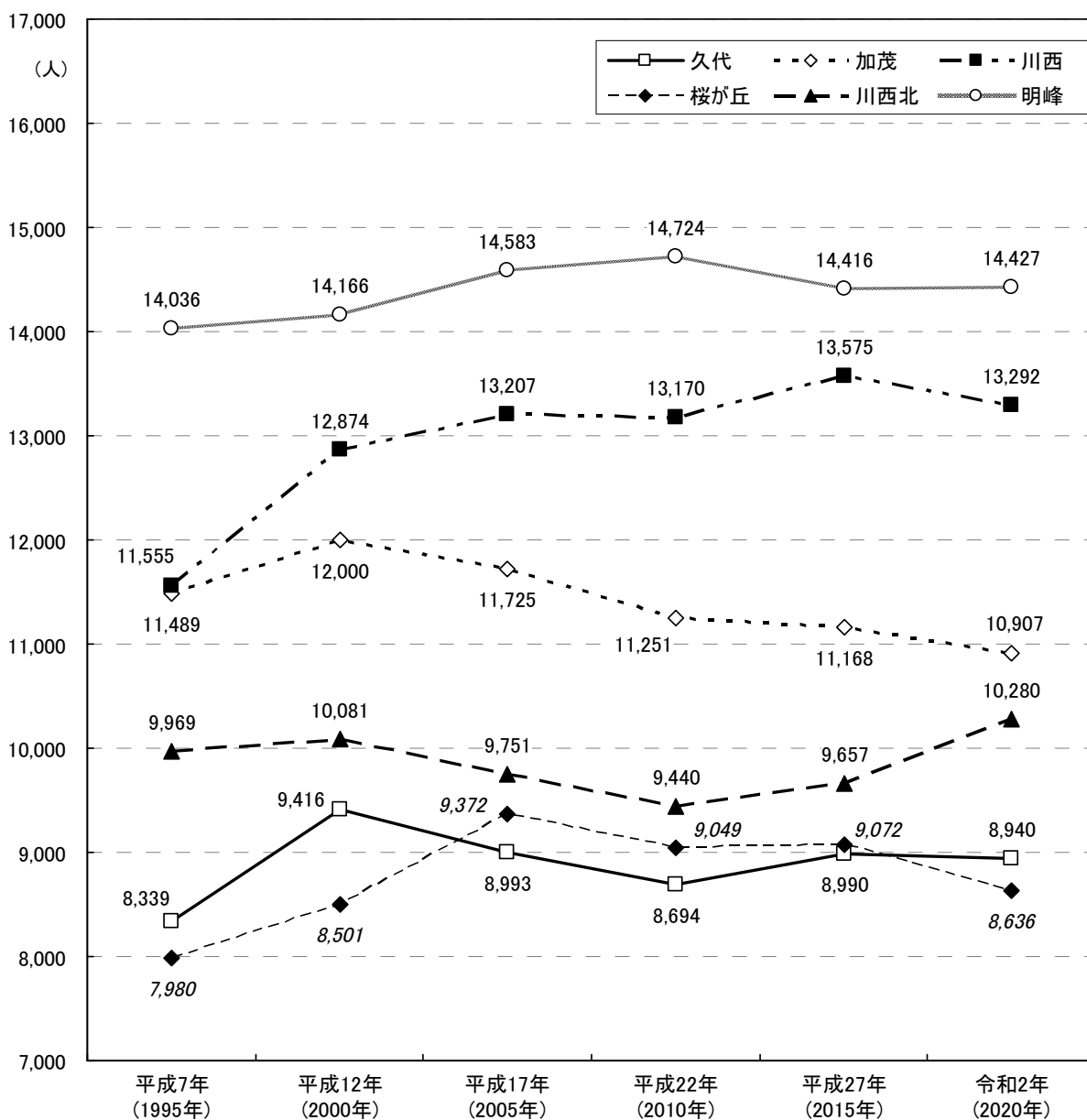
資料：住民基本台帳人口(各年9月末現在)

(3) 地区別人口

○国勢調査の小地域集計をもとに、市域を14地区に分けて、地区別に人口の推移を整理してみました。

○市南部の6地区について近年の動きをみると、人口の最も多い明峰地区が横ばい状況、次に人口の多い川西地区は増加基調、加茂地区は平成12年(2000年)以降減少、川西北地区と久代地区は平成22年(2010年)を底に人口が回復傾向、桜が丘地区は平成17年(2005年)以降減少傾向にあります。

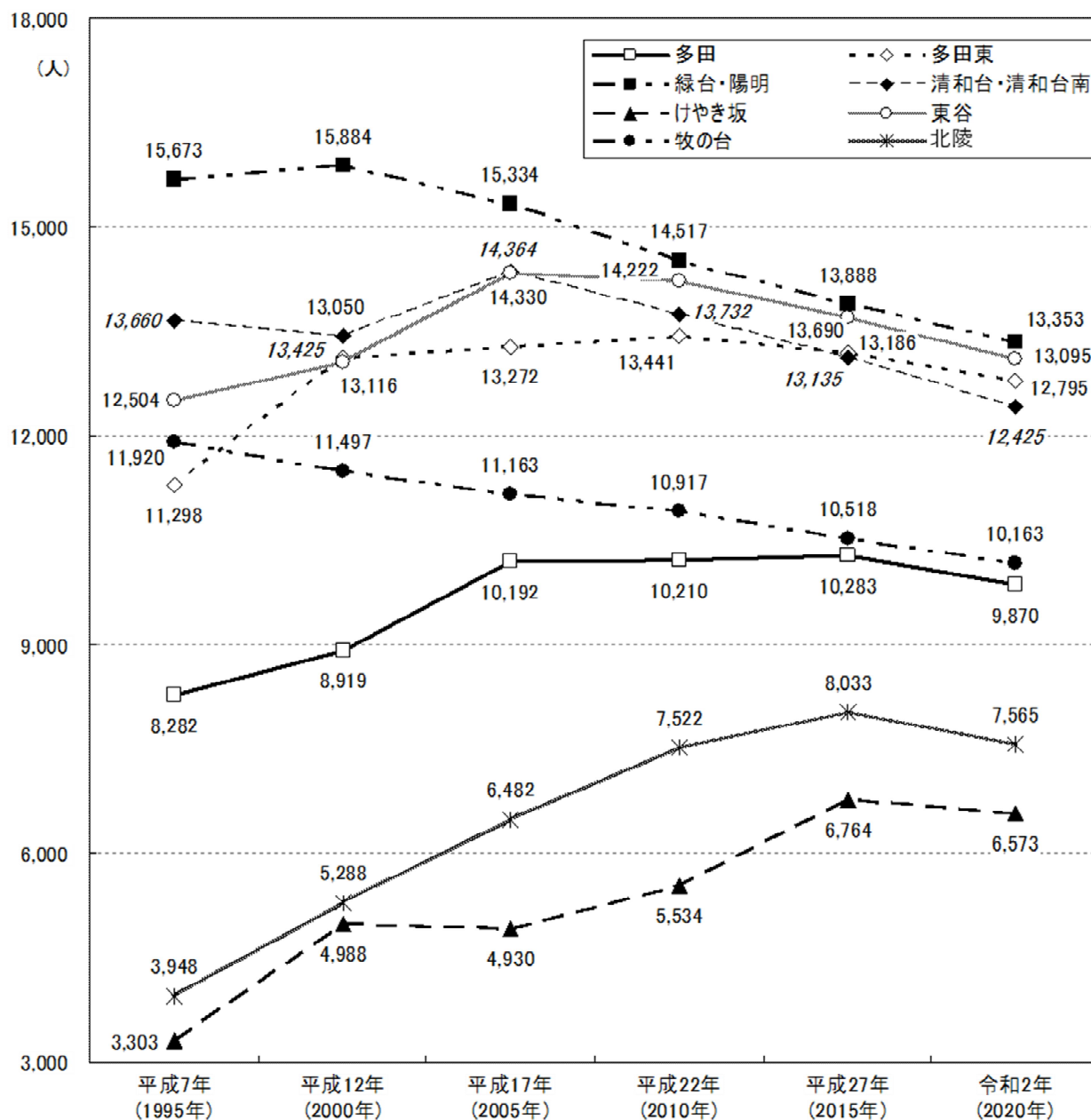
地区別人口の推移(南部)



資料：国勢調査小地域集計（平成7年/1995年と平成12年/2000年の町丁不明分については、地区別人口に含んでいません）

○市北部の8地区について近年の動きをみると、人口が最も多い緑台・陽明地区をはじめ、東谷地区、多田東地区、清和台・清和台南地区、牧の台地区でそれぞれ人口減少傾向にあります。また、多田地区は横ばい状況、北陵地区とけやき坂地区は増加傾向にありましたが平成27年(2015年)にピークを迎えています。

地区別人口の推移（北部）



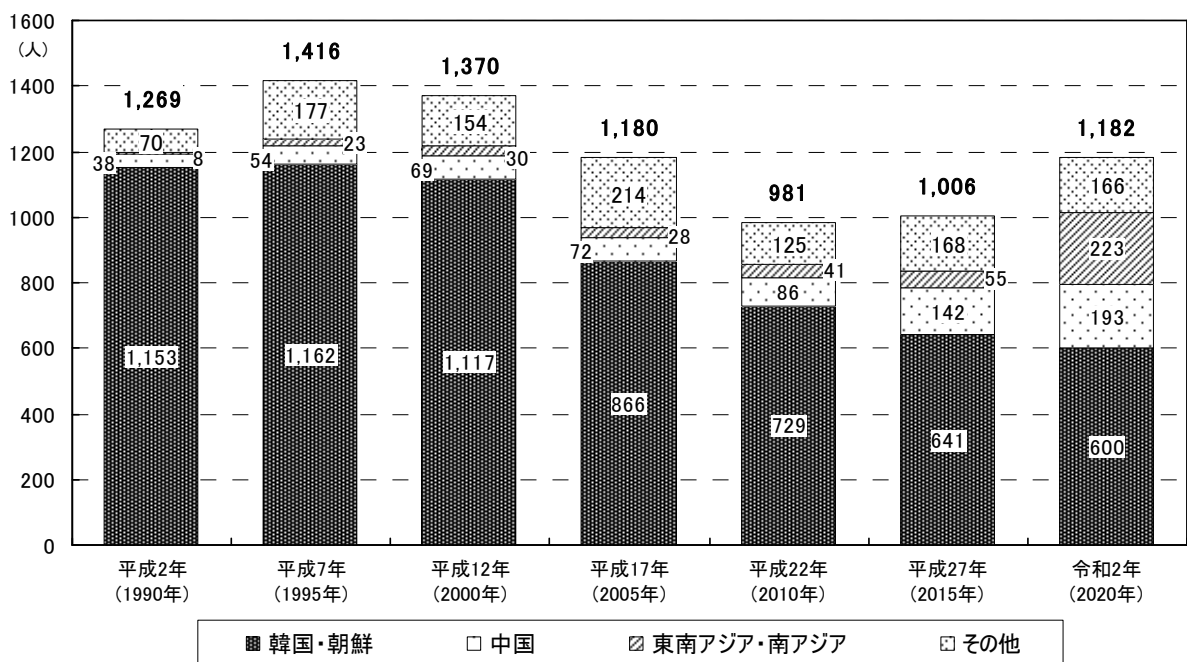
資料：国勢調査小地域集計（平成7年/1995年と平成12年/2000年の町丁不明分については、地区別人口に含んでいません）

(4) 国籍別人口

○外国人人口の状況を国勢調査ベースで見ると、平成22年(2010年)まで減少傾向にありましたが、近年は増加に転じており、令和2年(2020年)には1,182人の外国人が市内で暮らしています。

○国籍別には、韓国・朝鮮籍の人がほぼ半数を占めていますが、年々減少する傾向にあり、一方で中国籍の人、ベトナム・インドネシア・フィリピン・ネパール・タイなど東南アジア・南アジアの人々が急増しています。

外国人人口の推移



資料：国勢調査

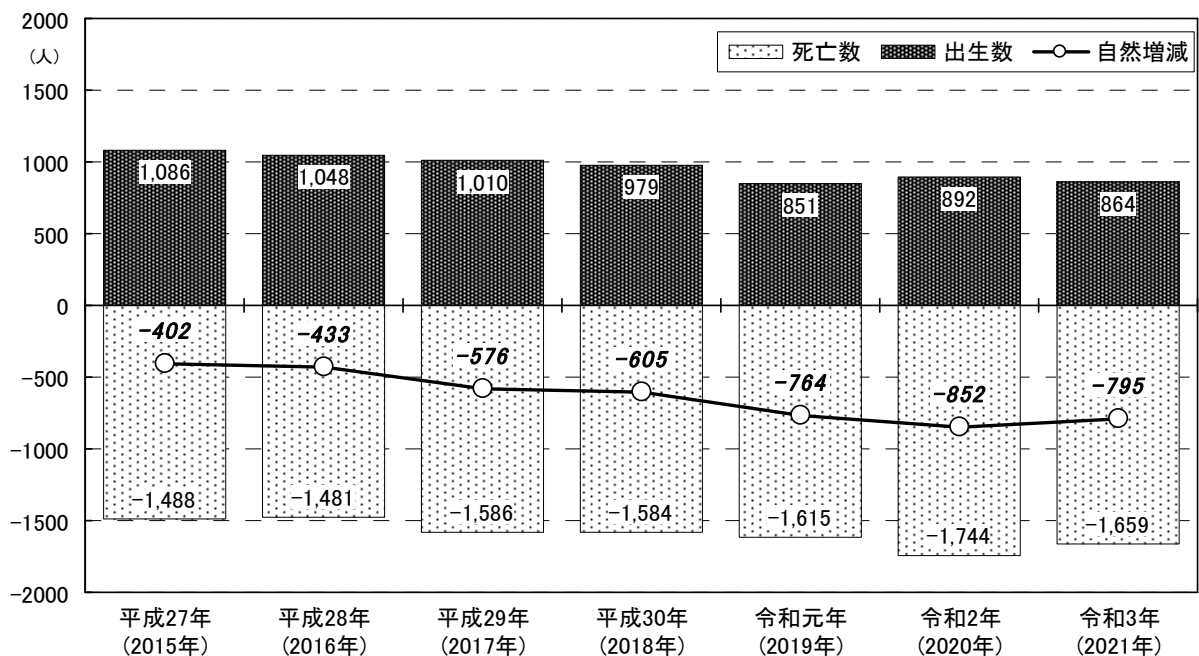
2 人口動態の状況

(1) 自然動態（出生・死亡）

○川西市においては平成19年(2007年)に初めて出生数を死亡数が上回る「自然減」の状況となり、平成22年(2010年)以降は一貫して「自然減」が続き、その傾向が強まる状況にあります。

○近年の出生数・死亡数の推移をみると、出生数については年により増減はありますが長期的にみて減少する傾向にあります。一方、死亡数については高齢化の進行に伴い、増加傾向にあります。

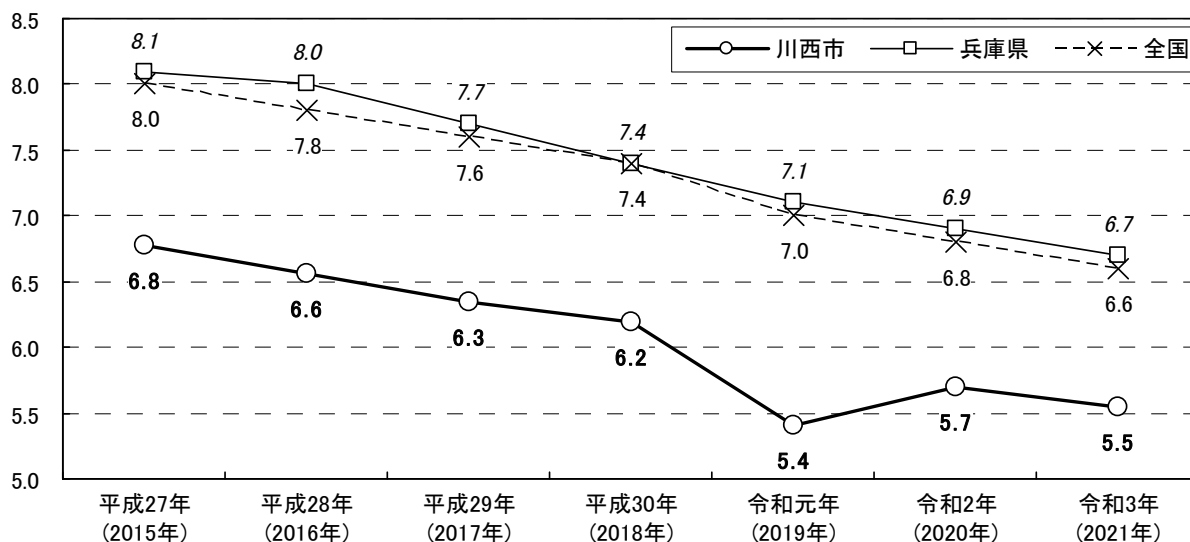
出生数・死亡数の推移



資料：川西市統計書、人口動態統計

○川西市の出生率（人口千人あたりの出生数）及び死亡率（人口千人あたりの死亡数）を全国・兵庫県平均と比べると、出生率については全国・兵庫県平均を大きく下回り、割合も低下傾向にあります。

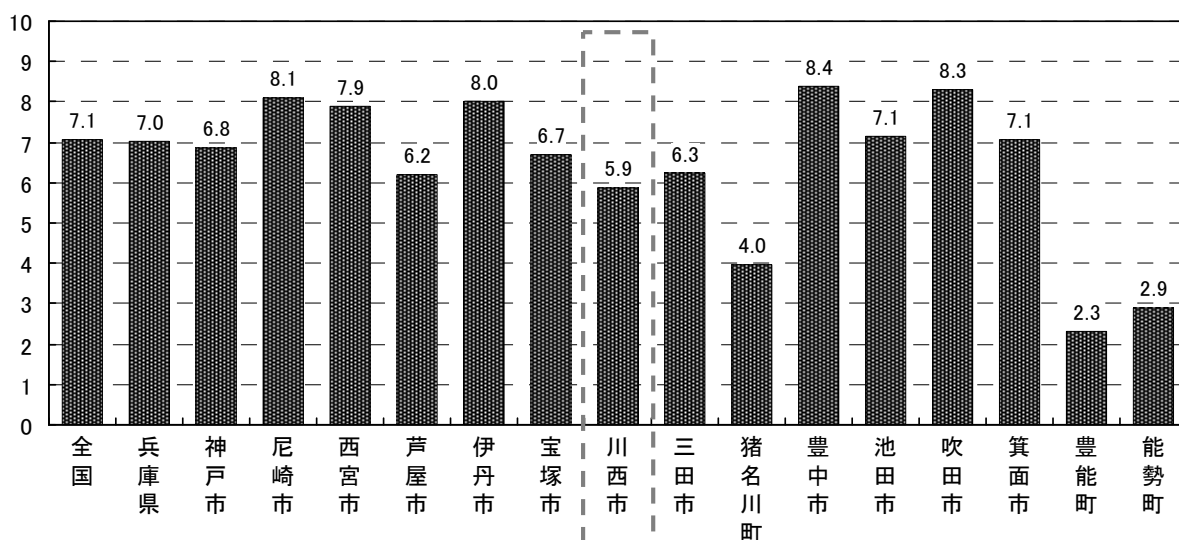
出生率（人口千人あたり出生数）の推移



資料：川西市統計書をもとに算出、全国と兵庫県平均は人口動態統計

○出生率を近隣自治体と比較すると、隣接する豊能町や能勢町、猪名川町に次いで低い水準となっています。

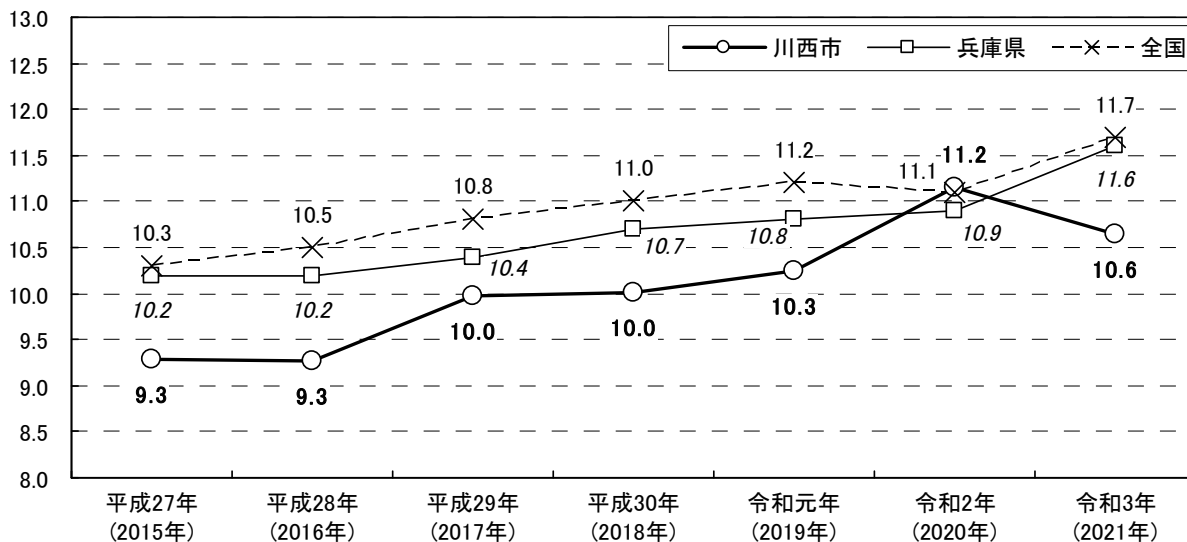
出生率（人口千人あたり出生数）の自治体比較（平成29年～令和3年の5か年平均）



資料：住民基本台帳人口移動報告をもとに算出

○死亡率については、令和2年(2020年)を除いて全国・兵庫県平均を下回る状況で推移していますが、割合は上昇傾向にあります。

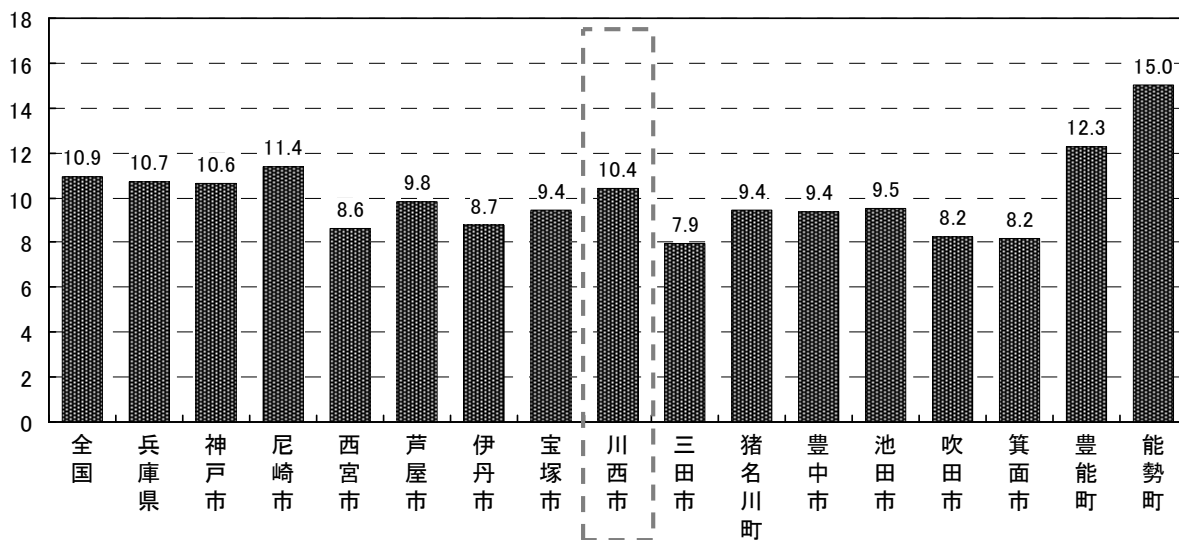
死亡率（人口千人あたり死亡数）の推移



資料：川西市統計書をもとに算出、全国と兵庫県平均は人口動態統計

○死亡率を近隣自治体と比較すると、隣接する能勢町や豊能町、尼崎市に次いで高い水準となっています。

死亡率（人口千人あたり死亡数）の自治体比較（平成29年～令和3年の5か年平均）

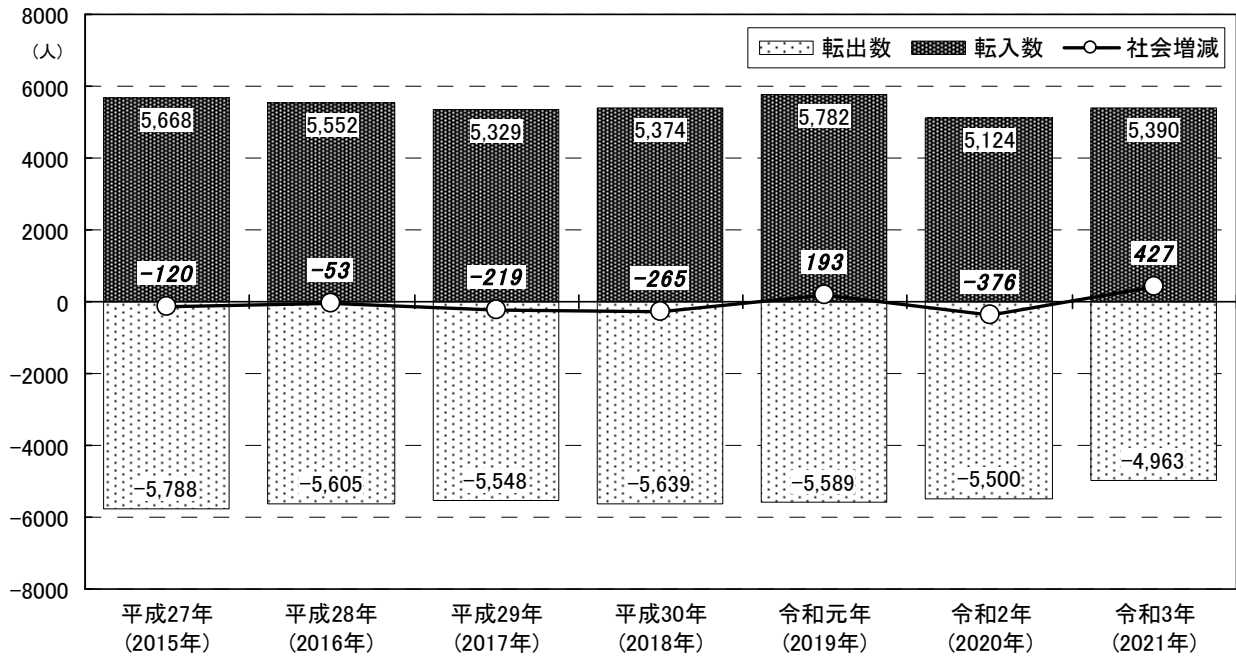


資料：住民基本台帳人口移動報告をもとに算出

(2) 社会動態（転入・転出）

○近年の社会動態の動向をみると、転入数・転出数とも毎年5,500人前後で推移しており、令和元年(2019年)、令和3年(2021年)を除いて、転出者の数が転入者の数を上回る「社会減」の状況にあります。

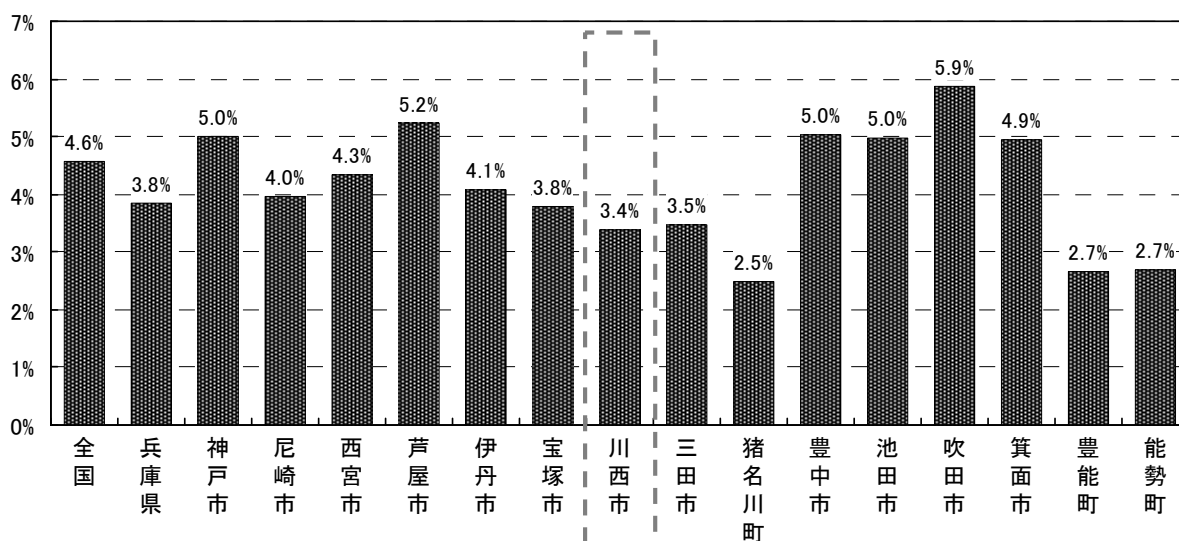
転入数・転出数の推移



資料：川西市統計書、兵庫県人口動態調査

○人口あたりの転入者の割合を近隣自治体と比較すると、隣接する猪名川町や豊能町、能勢町に次いで低い水準となっています。

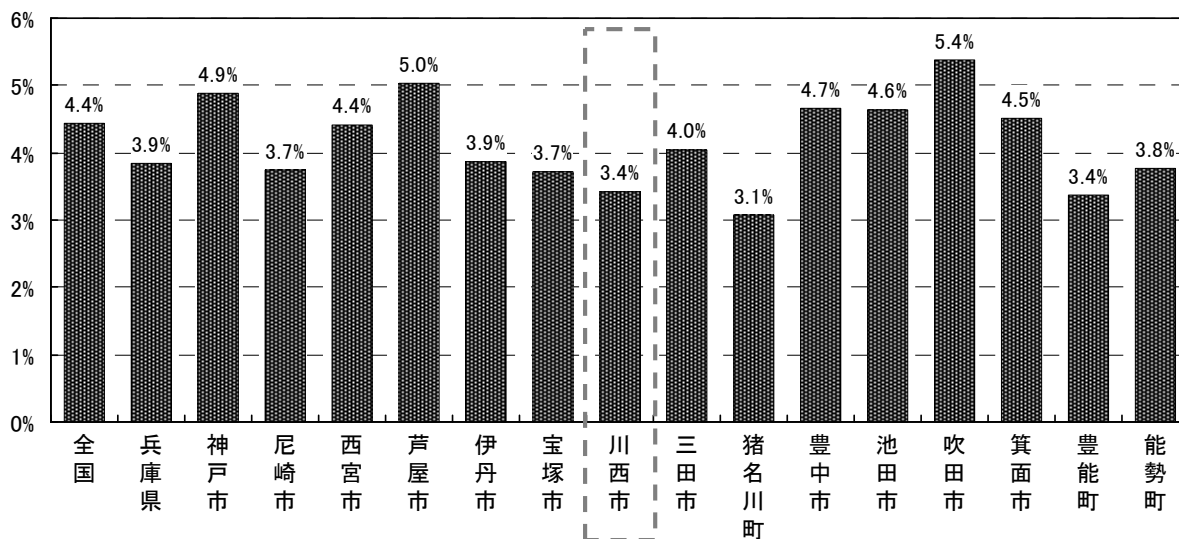
人口あたりの転入者割合の自治体比較（平成29年～令和3年の5か年平均）



資料：住民基本台帳人口移動報告をもとに算出

○人口あたりの転出者の割合を近隣自治体と比較すると、隣接する猪名川町に次いで低い水準となっています。

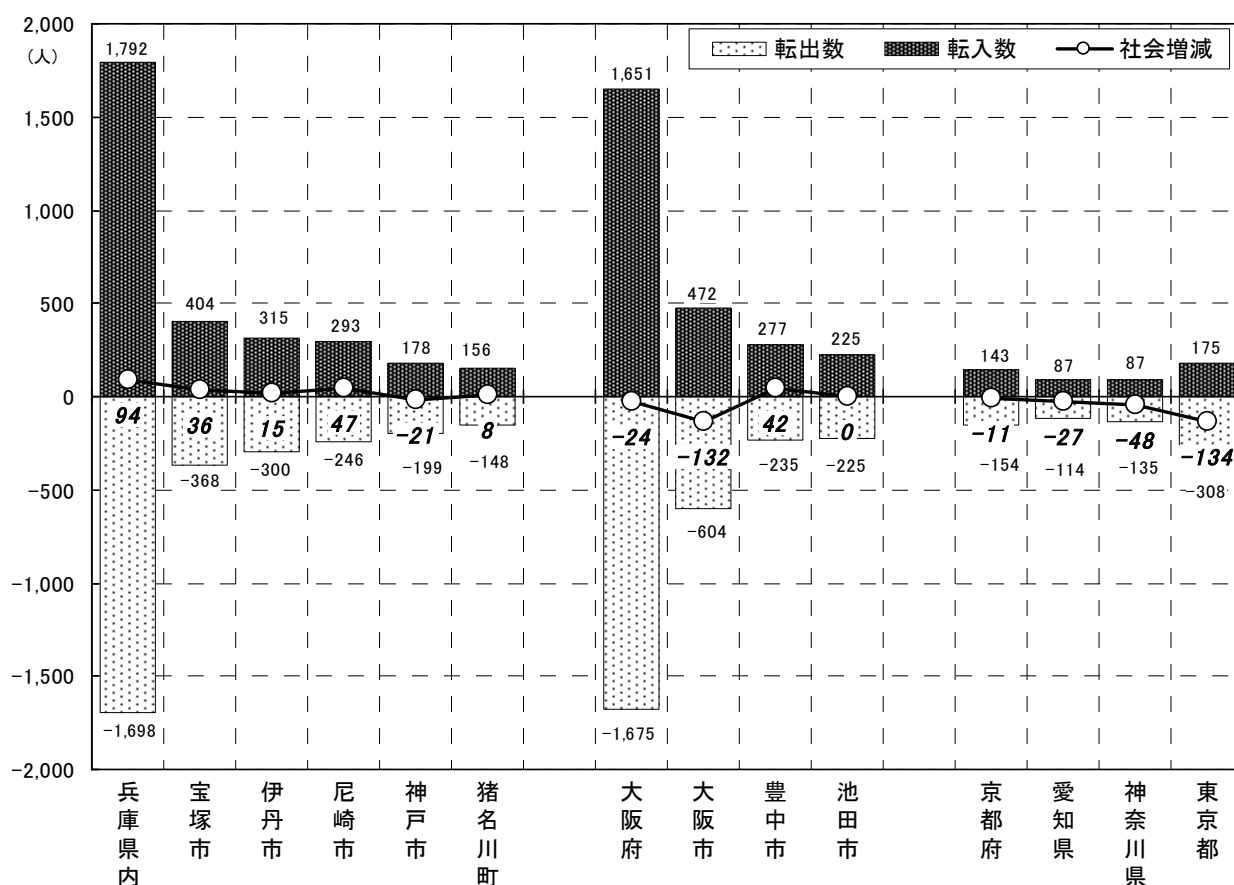
人口あたりの転出者割合の自治体比較（平成29年～令和3年の5か年平均）



資料：住民基本台帳人口移動報告をもとに算出

- 平成29年(2017年)から令和3年(2021年)までの5か年の転入元(移動前の住所地)と転出先(移動後の住所地)についてみると、転入数・転出数とも宝塚市、伊丹市、尼崎市、神戸市、猪名川町などの間、兵庫県外では大阪府(大阪市、豊中市、池田市など)、京都府、愛知県、東京都・神奈川県などとの人口移動が多くみられます。
- これらの人口移動のうち、大阪市や神戸市、首都圏、愛知県、京都府については転出数が転入数を上回る状況(社会減)にあり、近隣自治体については転入数が転出数を若干上回る状況(社会増)にあります。

転入・転出の状況(平成29年～令和3年の5か年平均)

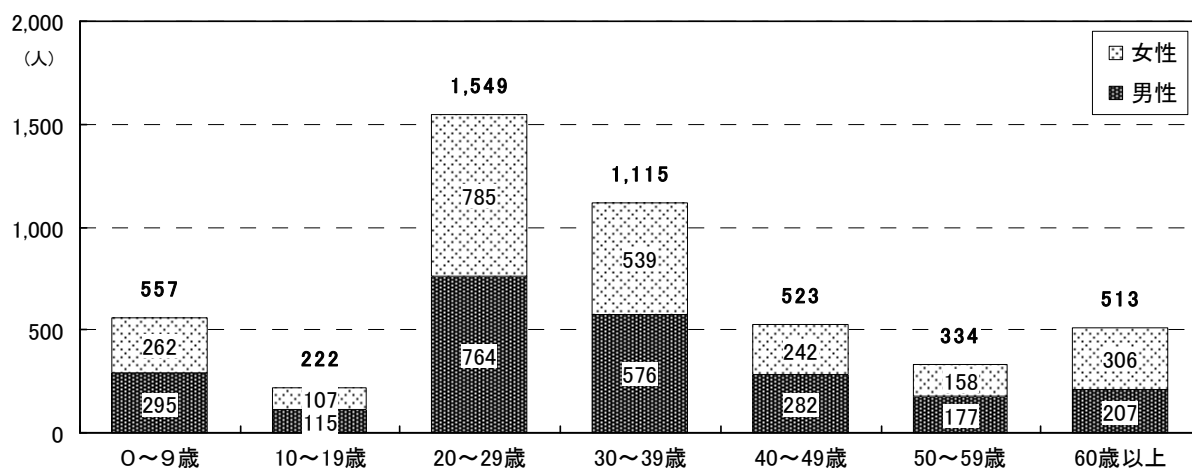


資料：住民基本台帳人口移動報告(日本人)

※転入数もしくは転出数で5か年平均100人以上の都府県・市町

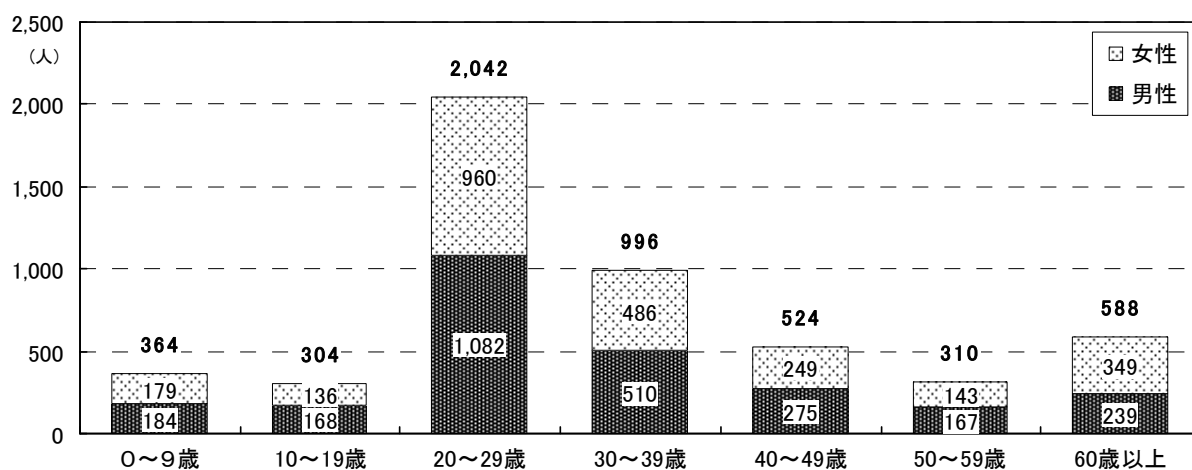
○平成29年(2017年)から令和3年(2021年)までの5か年の年齢階級別転入者数・転出者数についてみると、就労や就学に伴う移動の多い20～29歳が転入者数・転出者数とも最も多く、約500人の社会減となっています。一方、30～39歳や0～9歳は社会増となっており、家族形成期にあるファミリー層が転入しているものと考えられます。

年齢階級別転入者数（平成29年～令和3年の5か年平均）



資料：住民基本台帳人口移動報告（日本人）

年齢階級別転出者数（平成29年～令和3年の5か年平均）



資料：住民基本台帳人口移動報告（日本人）

3 将来人口の推計結果

(1) 推計方法と条件

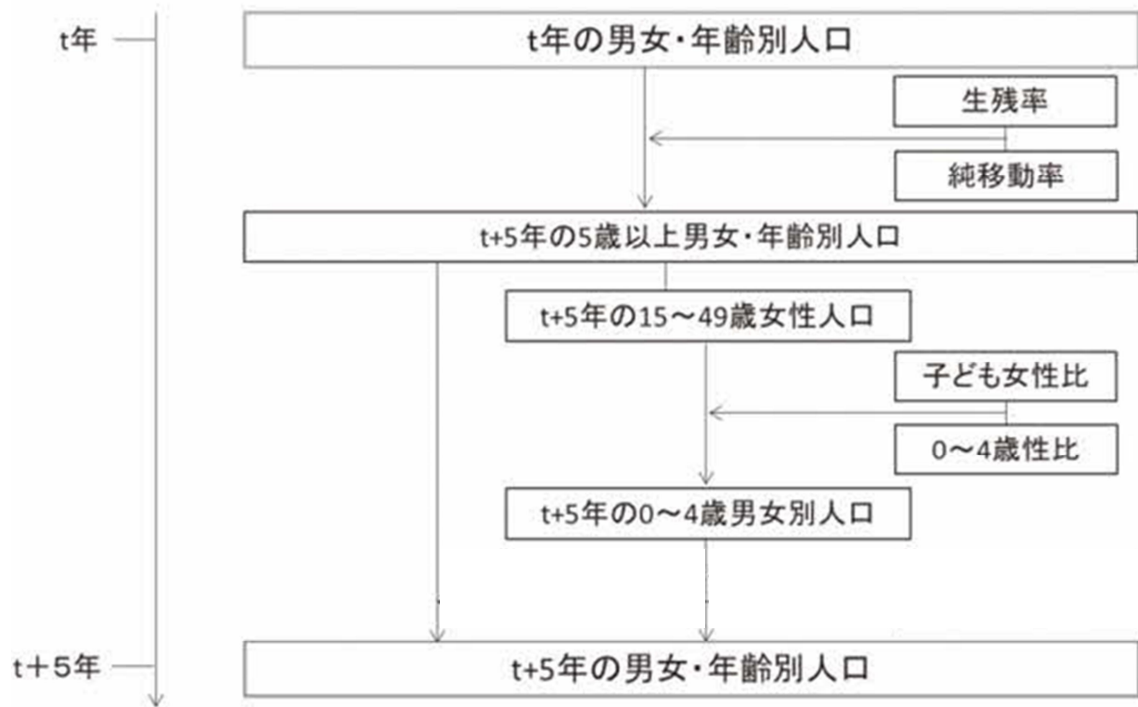
◆推計手法：コーホート要因法

- 将来人口の推計方法は、人口の長期的な将来予測を行う各種方法の中で理論的に優れており、国立社会保障・人口問題研究所をはじめとする様々な機関でよく利用されている「コーホート要因法」を採用しています。
- 「コーホート」とは、同じ年（期間）に生まれた人々の集団のことで、一般的には人口を男女別・5歳ごとの階層に分け、それぞれの階層の時間的変化を5年ごとに予測する（例えば20～24歳の男性が100人いたとしたら5年後には25～29歳の男性が100人となる）とともに、出生数、死亡数、転出・転入数、大規模な住宅開発に伴う人口増などの人口変動要因を織り込みながら将来人口を推計する方法です。

◆推計におけるケース設定

基準人口	<ul style="list-style-type: none">・平成27年(2015年)と令和2年(2020年)の国勢調査人口(各年10月1日現在)を基準人口としました。・ただし、令和2年(2020年)9月末から令和4年(2022年)9月末までの人口移動状況をもとに算出された令和4年(2022年)10月1日現在の推計人口と乖離がないように補正しています。
0～4歳人口の推計	<ul style="list-style-type: none">・各年の15歳～49歳女性人口に「子ども女性比」の仮定値を乗じて0～4歳人口(合計)を算出し、これに「0～4歳性比」の仮定値を用いて男性、女性に振り分けました。・「子ども女性比」「0～4歳性比」の仮定値は、国立社会保障・人口問題研究所編「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計)で川西市として設定された仮定値を採用しました。
生残率	<ul style="list-style-type: none">・男女別・5歳ごとの階層が5年後に生き残る割合を意味します。・「生残率」の仮定値は、国立社会保障・人口問題研究所編「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計)で川西市として設定された仮定値を採用しました。
純移動率	<ul style="list-style-type: none">・男女別・5歳ごとの階層が5年後に社会移動(転入・転出)により増減する割合を意味します。・「純移動率」の仮定値は、国立社会保障・人口問題研究所編「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計)で川西市として設定された仮定値を採用しました。
開発人口	<ul style="list-style-type: none">・市内において大規模な住宅開発が当面予定されていないことから、基準人口間の趨勢によるものとし、開発人口は見込んでいません。

コホート要因法による将来人口推計の手順イメージ

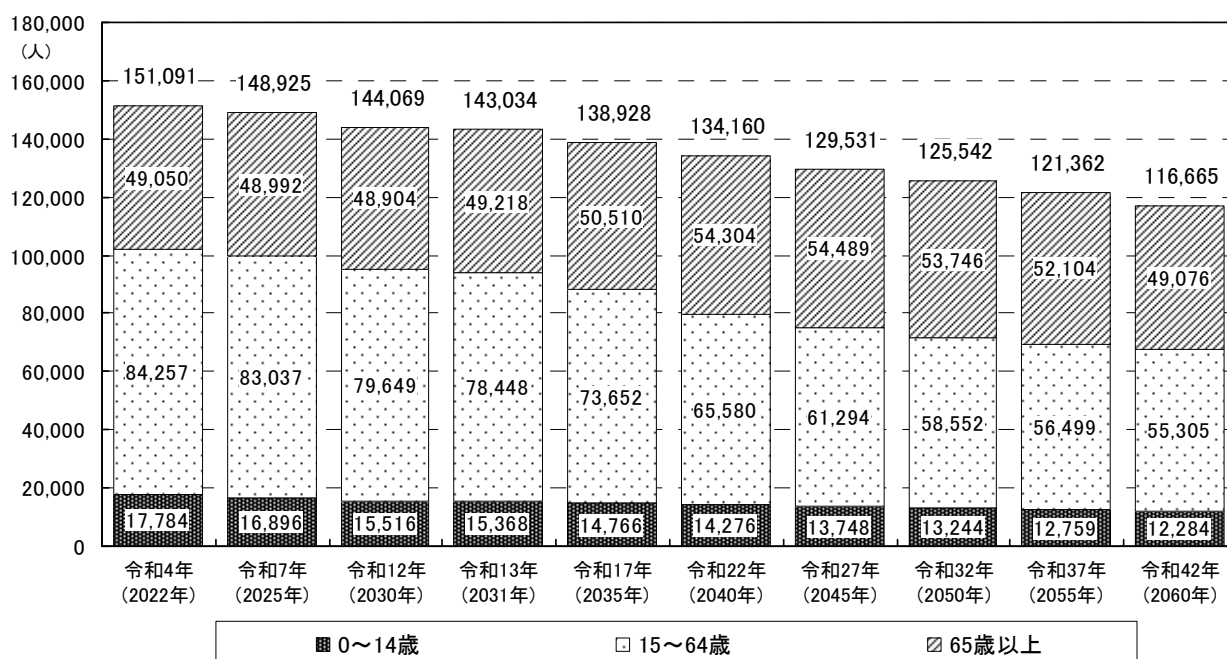


※国立社会保障・人口問題研究所の資料をもとに作成

(2) 全市推計結果

- 将来人口の推計は、市内14地区ごとに行い（次項（3）地区別推計結果を参照ください）、その結果を合算することで川西市全体の推計結果としました。
- 人口総数は、次期総合計画の終期となる令和13年(2031年)に約14万3千人、今から38年後の令和42年(2060年)に約11万7千人になるものと推計されます。
- 65歳以上の老年人口の割合は、令和37年(2055年)まで上昇を続け、75歳以上人口がピークを迎えます。また、0歳から14歳の年少人口の割合は10%台で推移するものと思われます。

川西市全体の将来人口推計

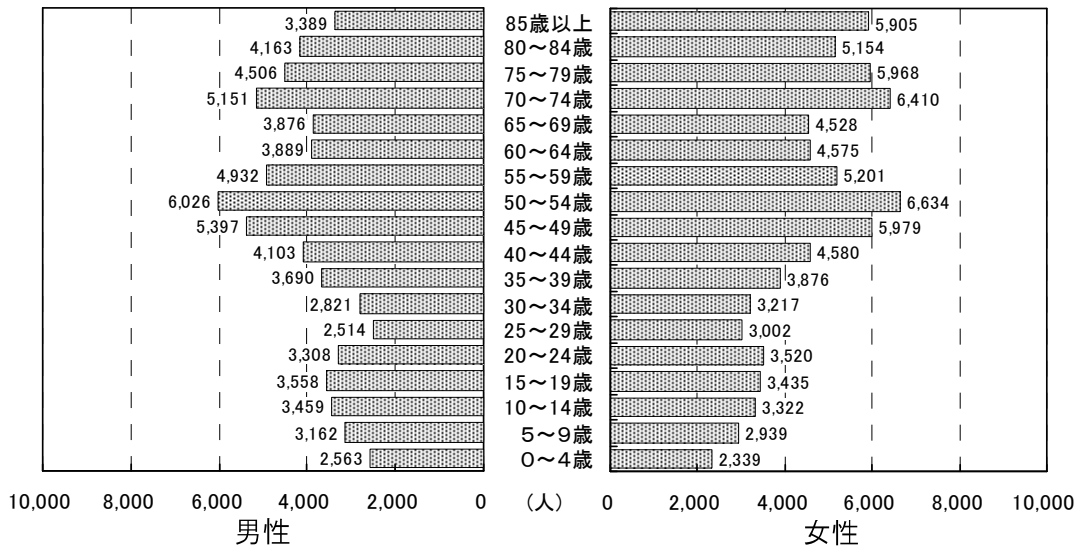


(単位：人)

	令和4年(2022年)	令和7年(2025年)	令和12年(2030年)	令和13年(2031年)	令和17年(2035年)	令和22年(2040年)	令和27年(2045年)	令和32年(2050年)	令和37年(2055年)	令和42年(2060年)
0~14歳	17,784	16,896	15,516	15,368	14,766	14,276	13,748	13,244	12,759	12,284
15~39歳	32,941	31,914	30,874	30,728	30,131	28,387	26,594	25,137	23,648	22,761
40~64歳	51,316	51,123	48,775	47,720	43,521	37,193	34,700	33,415	32,851	32,544
65~74歳	19,965	17,313	16,544	17,265	20,165	24,140	22,402	17,309	14,970	13,323
75歳以上	29,085	31,679	32,360	31,953	30,345	30,164	32,087	36,437	37,134	35,753
計	151,091	148,925	144,069	143,034	138,928	134,160	129,531	125,542	121,362	116,665

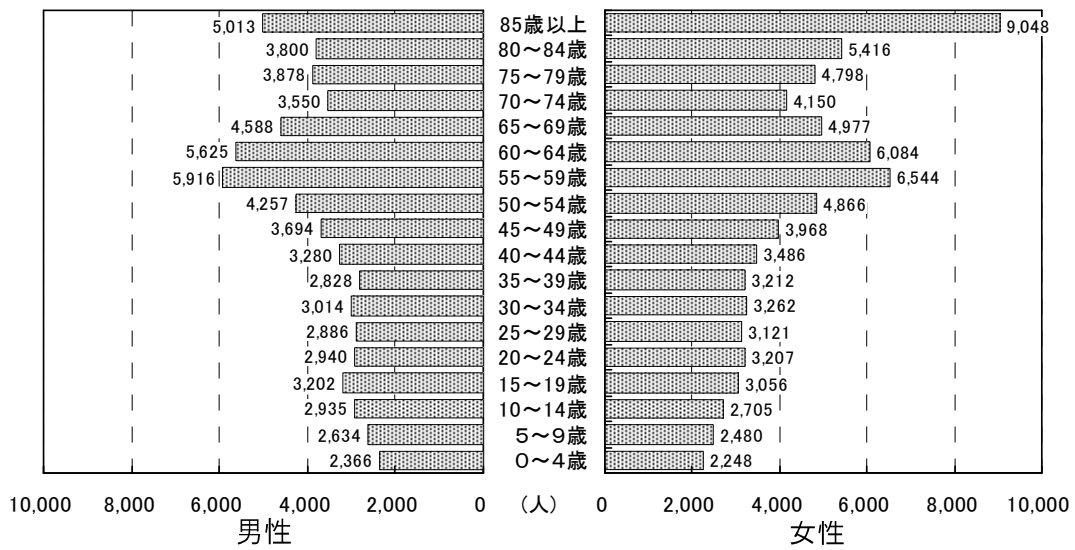
〔令和4年(2022年)の推計人口〕

令和4年(2022年)



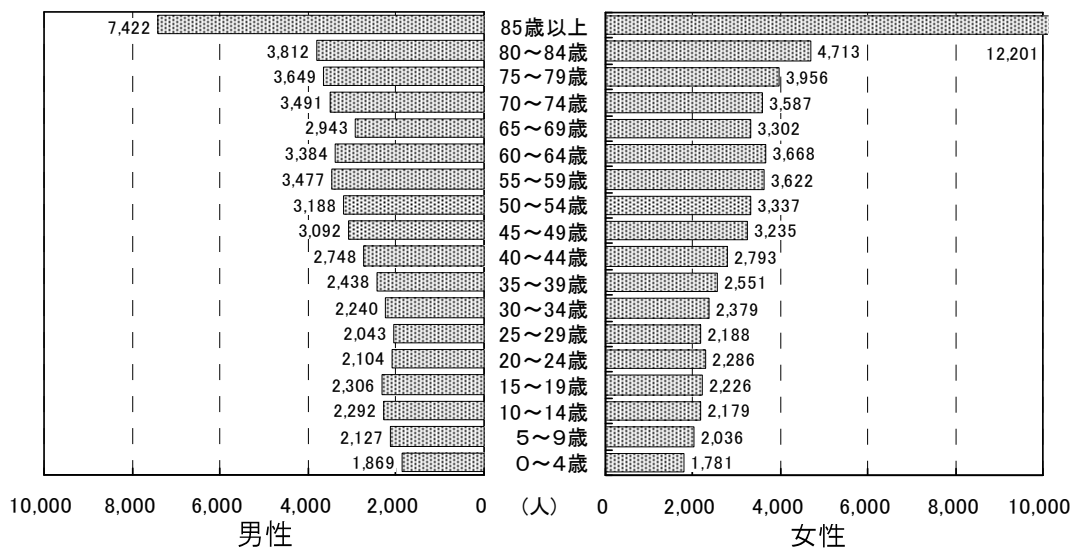
〔令和13年(2031年)の推計値〕

令和13年(2031年)



〔令和42年(2060年)の推計値〕

令和42年(2060年)

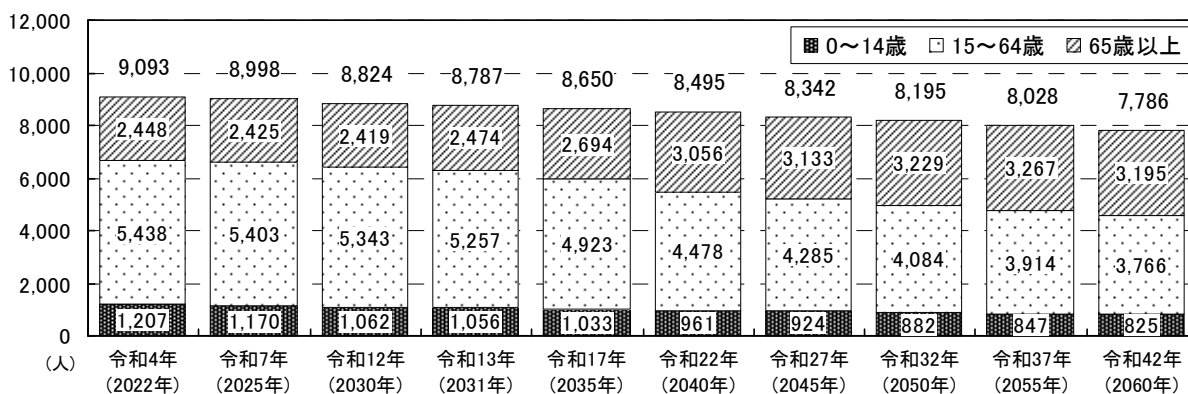


(3) 地区別推計結果

① 久代地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。

久代地区の将来人口推計



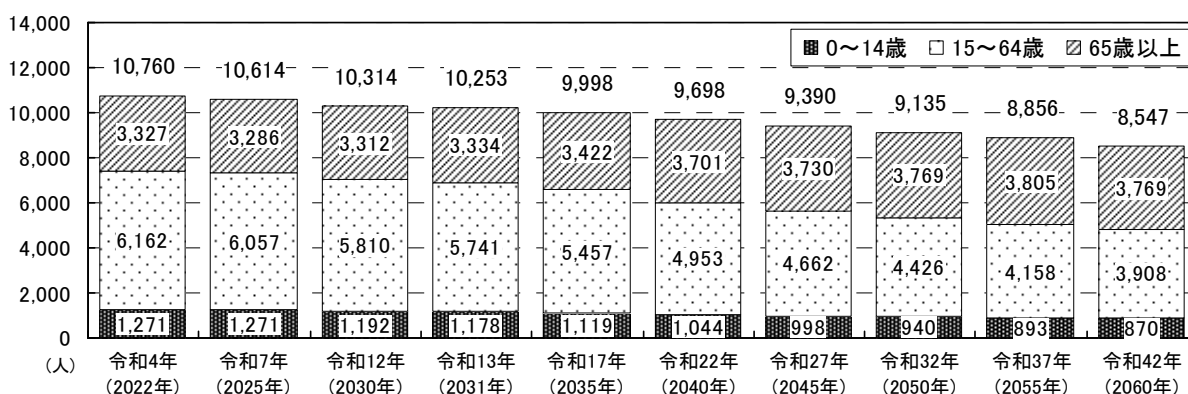
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,207	1,170	1,062	1,056	1,033	961	924	882	847	825
15～39歳	2,324	2,238	2,163	2,137	2,038	1,862	1,777	1,722	1,609	1,565
40～64歳	3,114	3,165	3,180	3,120	2,885	2,616	2,508	2,362	2,305	2,201
65～74歳	934	817	843	921	1,230	1,571	1,352	1,083	1,059	1,000
75歳以上	1,514	1,608	1,576	1,553	1,464	1,485	1,781	2,146	2,208	2,195
計	9,093	8,998	8,824	8,787	8,650	8,495	8,342	8,195	8,028	7,786

② 加茂地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。

加茂地区の将来人口推計



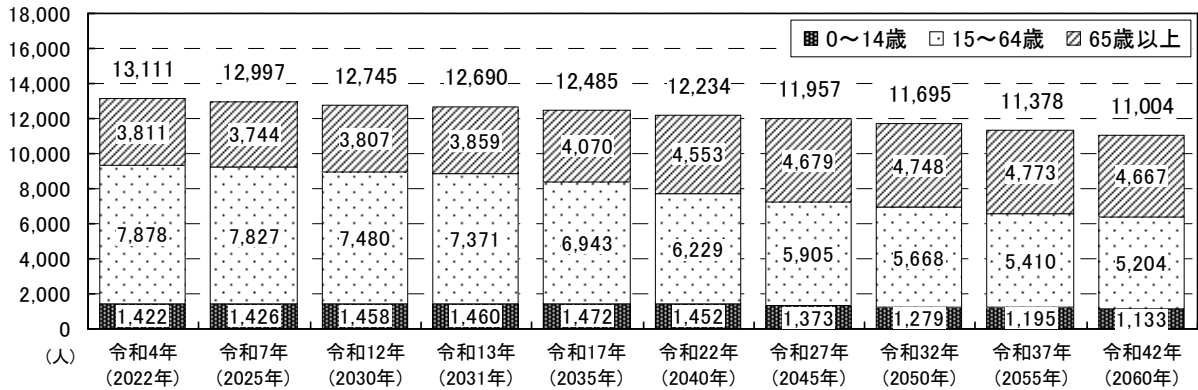
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,271	1,271	1,192	1,178	1,119	1,044	998	940	893	870
15～39歳	2,562	2,418	2,233	2,202	2,067	1,923	1,854	1,870	1,790	1,689
40～64歳	3,600	3,639	3,577	3,539	3,390	3,030	2,808	2,556	2,368	2,219
65～74歳	1,278	1,108	1,125	1,186	1,432	1,659	1,546	1,266	1,255	1,245
75歳以上	2,049	2,178	2,187	2,148	1,990	2,042	2,184	2,503	2,550	2,524
計	10,760	10,614	10,314	10,253	9,998	9,698	9,390	9,135	8,856	8,547

③ 川西地区

○一貫して人口減少、高齢化が進む見込みです。また、15歳未満の年少人口は令和22年(2040年)まで横ばい状況で推移し、その後は減少するものと思われます。

川西地区の将来人口推計



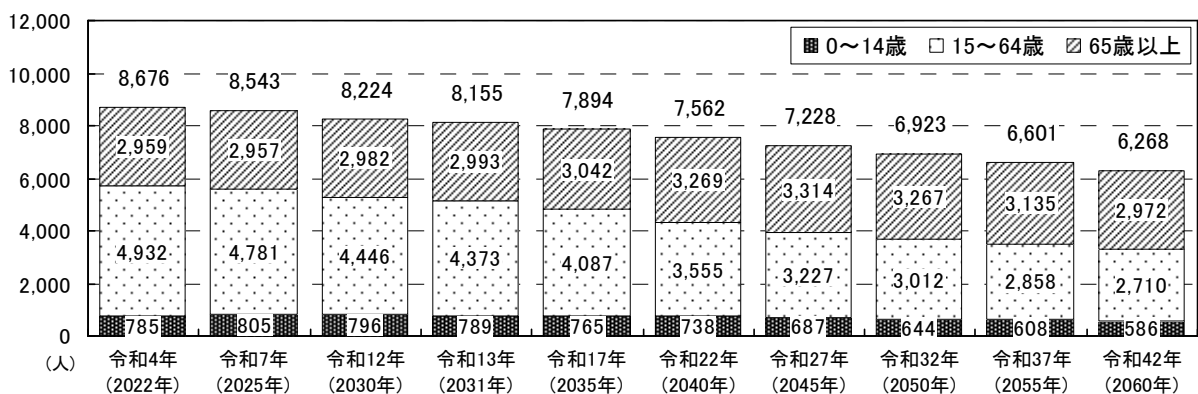
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,422	1,426	1,458	1,460	1,472	1,452	1,373	1,279	1,195	1,133
15～39歳	3,364	3,197	2,926	2,886	2,729	2,390	2,329	2,296	2,285	2,265
40～64歳	4,514	4,630	4,554	4,485	4,214	3,839	3,576	3,372	3,125	2,939
65～74歳	1,508	1,272	1,284	1,385	1,793	2,193	2,037	1,590	1,491	1,446
75歳以上	2,303	2,472	2,523	2,474	2,277	2,360	2,642	3,158	3,282	3,221
計	13,111	12,997	12,745	12,690	12,485	12,234	11,957	11,695	11,378	11,004

④ 桜が丘地区

○他の地区と比べてやや早いペースで人口減少、少子高齢化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和27年(2045年)をピークに減少に転じるものと考えられます。

桜が丘地区の将来人口推計



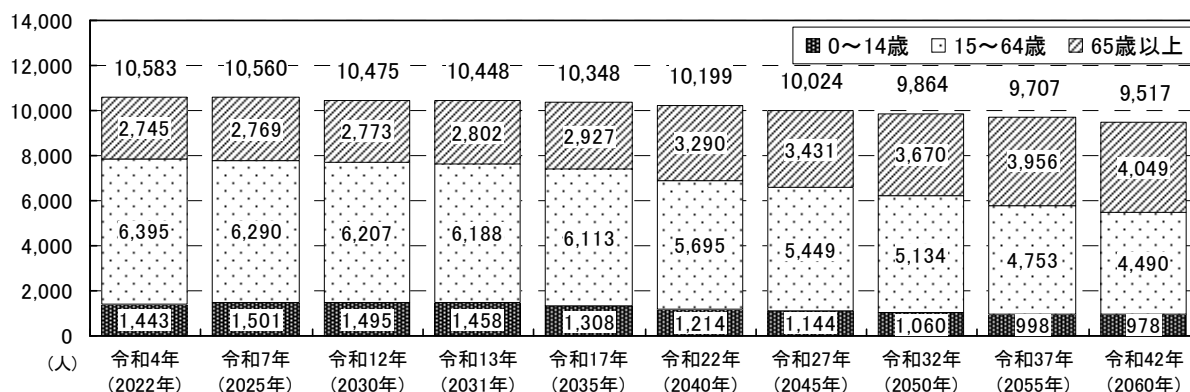
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	785	805	796	789	765	738	687	644	608	586
15～39歳	1,821	1,678	1,542	1,522	1,449	1,372	1,226	1,242	1,207	1,150
40～64歳	3,111	3,103	2,904	2,851	2,638	2,183	2,001	1,770	1,651	1,560
65～74歳	1,169	1,031	1,051	1,082	1,208	1,419	1,378	1,071	877	791
75歳以上	1,790	1,926	1,931	1,911	1,834	1,850	1,936	2,196	2,258	2,181
計	8,676	8,543	8,224	8,155	7,894	7,562	7,228	6,923	6,601	6,268

⑤ 川西北地区

○一貫して人口減少、高齢化が進む見込みです。また、15歳未満の年少人口は令和7年(2025年)にピークを迎え、その後は減少傾向に転じるものと考えられます。

川西北地区の将来人口推計



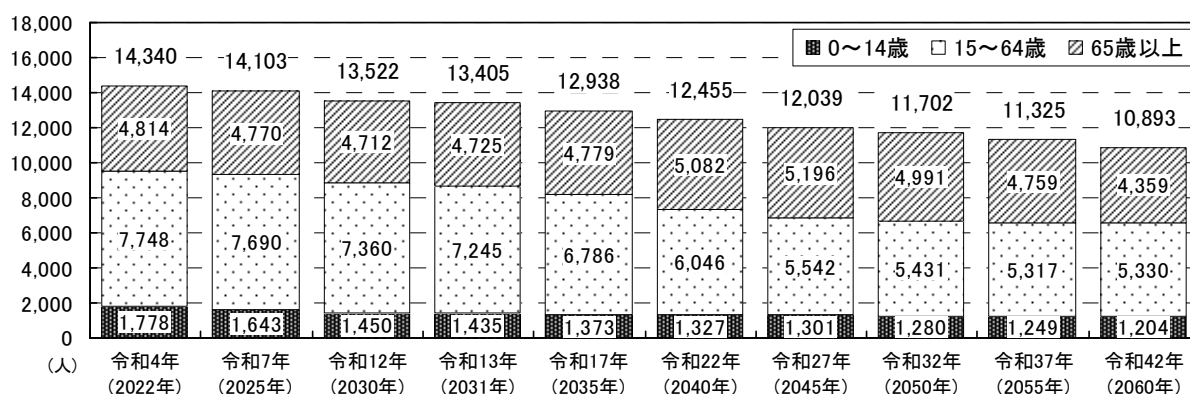
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,443	1,501	1,495	1,458	1,308	1,214	1,144	1,060	998	978
15～39歳	3,002	2,768	2,424	2,416	2,379	2,135	2,111	2,198	2,168	1,955
40～64歳	3,393	3,522	3,783	3,772	3,734	3,560	3,338	2,936	2,585	2,535
65～74歳	1,081	1,015	1,001	1,041	1,208	1,560	1,528	1,412	1,560	1,482
75歳以上	1,664	1,754	1,772	1,761	1,719	1,730	1,903	2,258	2,396	2,567
計	10,583	10,560	10,475	10,448	10,348	10,199	10,024	9,864	9,707	9,517

⑥ 明峰地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和27年(2045年)をピークに減少に転じるものと考えられます。

明峰地区の将来人口推計



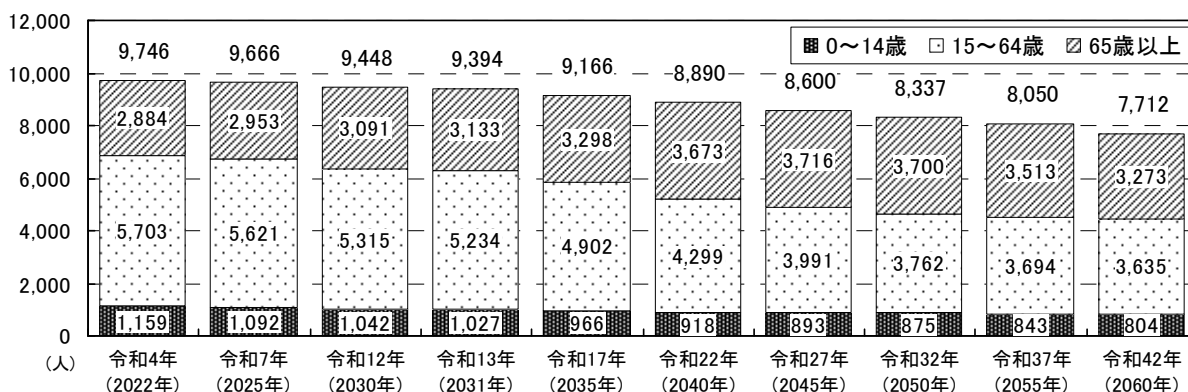
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,778	1,643	1,450	1,435	1,373	1,327	1,301	1,280	1,249	1,204
15～39歳	2,913	2,924	2,915	2,920	2,939	2,907	2,667	2,400	2,218	2,140
40～64歳	4,835	4,766	4,445	4,325	3,847	3,139	2,875	3,031	3,099	3,190
65～74歳	1,778	1,478	1,548	1,621	1,915	2,248	2,186	1,578	1,193	1,061
75歳以上	3,036	3,292	3,164	3,104	2,864	2,834	3,010	3,413	3,566	3,298
計	14,340	14,103	13,522	13,405	12,938	12,455	12,039	11,702	11,325	10,893

⑦ 多田地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和27年(2045年)をピークに減少に転じるものと考えられます。

多田地区の将来人口推計



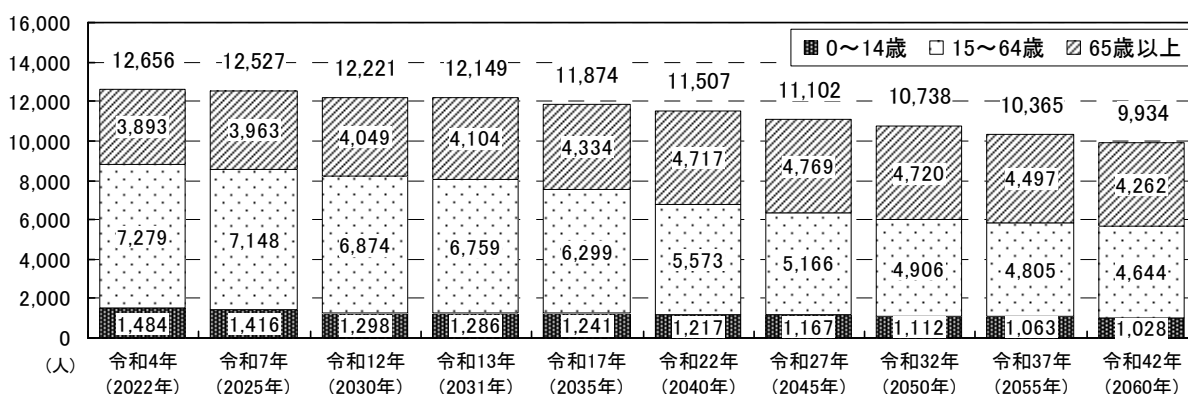
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,159	1,092	1,042	1,027	966	918	893	875	843	804
15～39歳	2,135	2,050	1,998	1,995	1,980	1,900	1,743	1,615	1,564	1,499
40～64歳	3,568	3,571	3,317	3,239	2,922	2,399	2,248	2,147	2,130	2,136
65～74歳	1,308	1,155	1,114	1,170	1,393	1,708	1,582	1,190	951	795
75歳以上	1,576	1,798	1,977	1,963	1,905	1,965	2,134	2,510	2,562	2,478
計	9,746	9,666	9,448	9,394	9,166	8,890	8,600	8,337	8,050	7,712

⑧ 多田東地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和27年(2045年)をピークに減少に転じるものと考えられます。

多田東地区の将来人口推計



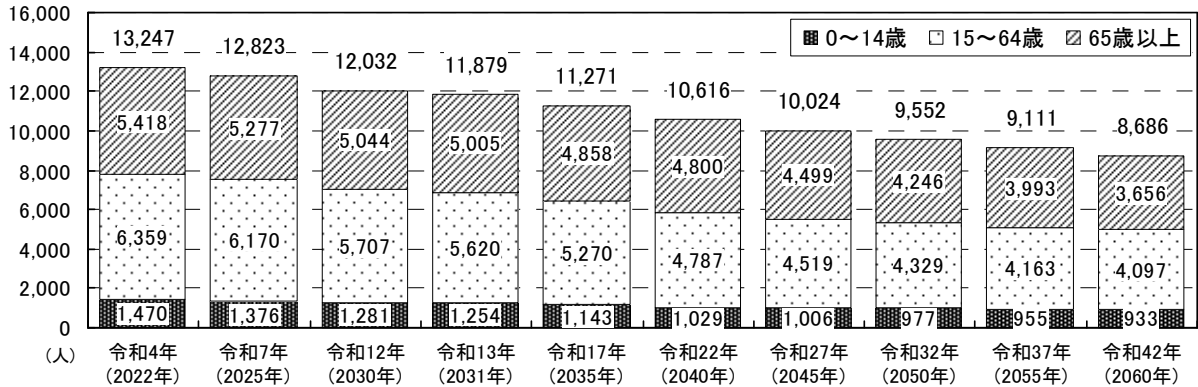
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,484	1,416	1,298	1,286	1,241	1,217	1,167	1,112	1,063	1,028
15～39歳	2,751	2,652	2,641	2,619	2,529	2,332	2,218	2,120	1,995	1,915
40～64歳	4,528	4,496	4,233	4,140	3,770	3,241	2,948	2,786	2,810	2,729
65～74歳	1,769	1,594	1,446	1,510	1,771	2,142	1,967	1,537	1,229	1,112
75歳以上	2,124	2,369	2,603	2,594	2,563	2,575	2,802	3,183	3,268	3,150
計	12,656	12,527	12,221	12,149	11,874	11,507	11,102	10,738	10,365	9,934

⑨ 緑台・陽明地区

○65歳以上の老年人口もすでに減少傾向にあり、他の地区より人口減少、少子高齢化がかなり早いペースで進む見込みです。

緑台・陽明地区の将来人口推計



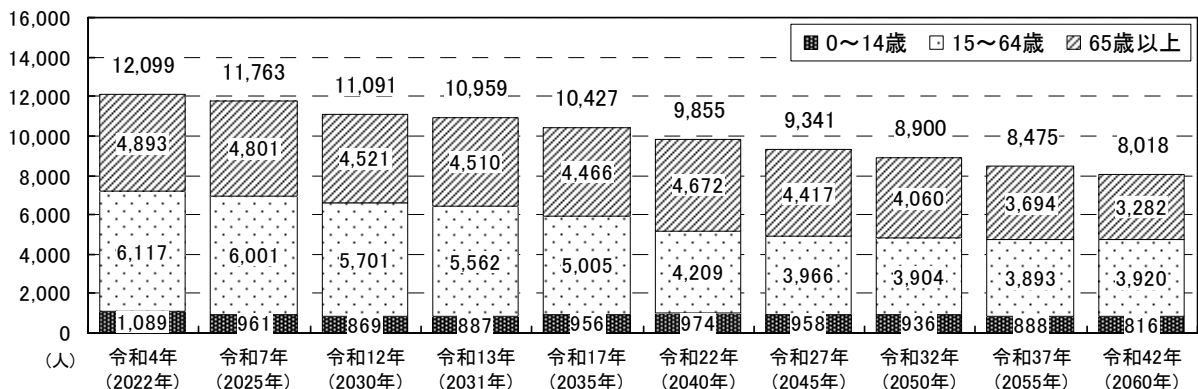
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,470	1,376	1,281	1,254	1,143	1,029	1,006	977	955	933
15～39歳	2,318	2,273	2,164	2,173	2,201	2,189	2,071	1,954	1,864	1,727
40～64歳	4,041	3,897	3,543	3,447	3,069	2,598	2,448	2,375	2,299	2,370
65～74歳	1,934	1,635	1,586	1,618	1,749	1,798	1,526	1,185	1,110	986
75歳以上	3,484	3,642	3,458	3,387	3,109	3,002	2,973	3,061	2,883	2,670
計	13,247	12,823	12,032	11,879	11,271	10,616	10,024	9,552	9,111	8,686

⑩ 清和台・清和台南地区

○他の地区と比べて早いペースで人口減少、少子化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和22年(2040年)にいったん増加し、その後再び減少に転じるものと考えられます。

清和台・清和台南地区の将来人口推計



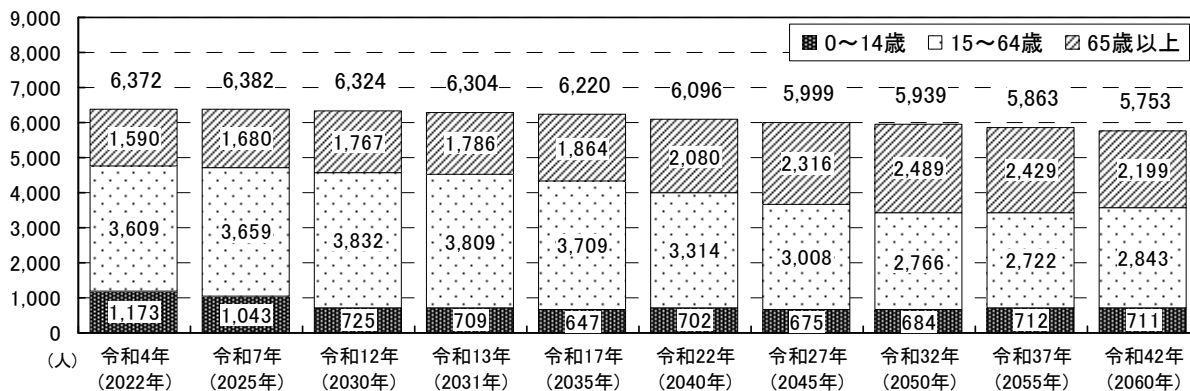
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,089	961	869	887	956	974	958	936	888	816
15～39歳	2,240	2,278	2,295	2,275	2,193	2,006	1,731	1,533	1,439	1,526
40～64歳	3,877	3,723	3,406	3,287	2,812	2,203	2,235	2,371	2,454	2,394
65～74歳	1,930	1,566	1,298	1,347	1,541	2,011	1,715	1,018	758	683
75歳以上	2,963	3,235	3,223	3,163	2,925	2,661	2,702	3,042	2,936	2,599
計	12,099	11,763	11,091	10,959	10,427	9,855	9,341	8,900	8,475	8,018

⑪ けやき坂地区

○他の地区と比べると人口減少、高齢化のペースが緩やかに進む見込みです。また、15歳未満の年少人口は令和12年(2030年)以降横ばい状況で推移するものと考えられます。

けやき坂地区の将来人口推計



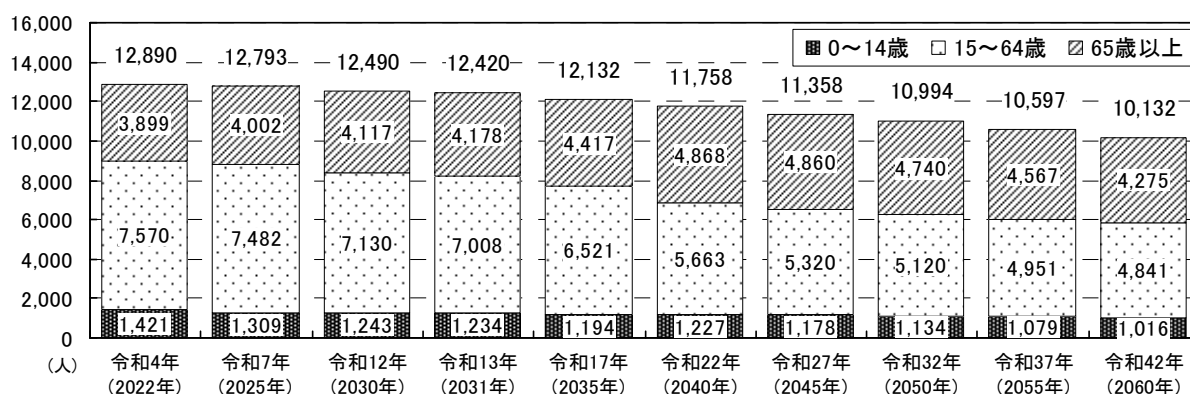
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,173	1,043	725	709	647	702	675	684	712	711
15～39歳	1,326	1,298	1,535	1,560	1,662	1,654	1,612	1,440	1,117	1,043
40～64歳	2,283	2,361	2,297	2,249	2,047	1,660	1,396	1,326	1,605	1,800
65～74歳	858	799	679	685	707	908	1,116	1,099	797	417
75歳以上	732	881	1,088	1,101	1,157	1,172	1,200	1,390	1,632	1,782
計	6,372	6,382	6,324	6,304	6,220	6,096	5,999	5,939	5,863	5,753

⑫ 東谷地区

○一貫して人口減少、少子高齢化が進む見込みです。また、65歳以上の老年人口は令和22年(2040年)をピークに減少に転じるものと考えられます。

東谷地区の将来人口推計



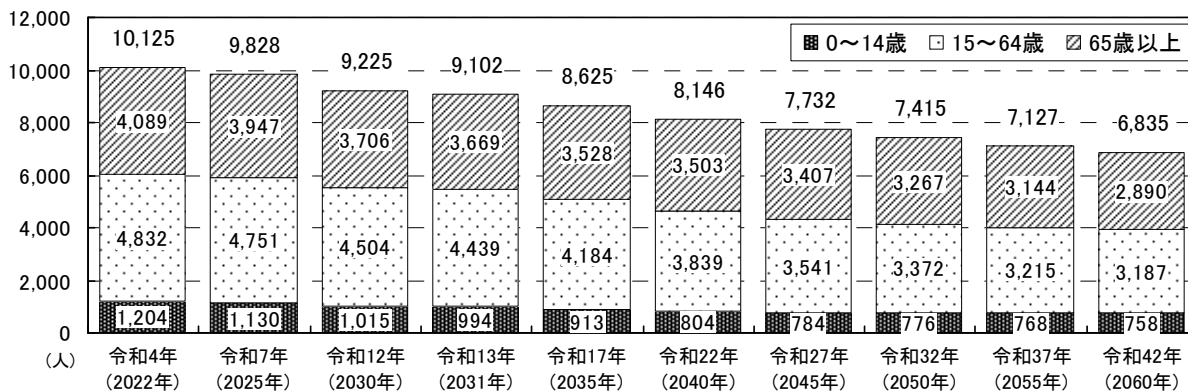
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,421	1,309	1,243	1,234	1,194	1,227	1,178	1,134	1,079	1,016
15～39歳	3,007	2,960	2,810	2,793	2,726	2,467	2,214	2,028	1,944	1,882
40～64歳	4,563	4,522	4,320	4,215	3,795	3,196	3,106	3,092	3,007	2,959
65～74歳	1,834	1,607	1,454	1,524	1,801	2,255	2,014	1,443	1,241	1,138
75歳以上	2,065	2,395	2,663	2,654	2,616	2,613	2,846	3,297	3,326	3,137
計	12,890	12,793	12,490	12,420	12,132	11,758	11,358	10,994	10,597	10,132

⑬ 牧の台地区

○65歳以上の老年人口もすでに減少傾向にあり、他の地区より人口減少、少子高齢化がかなり早いペースで進む見込みです。

牧の台地区の将来人口推計



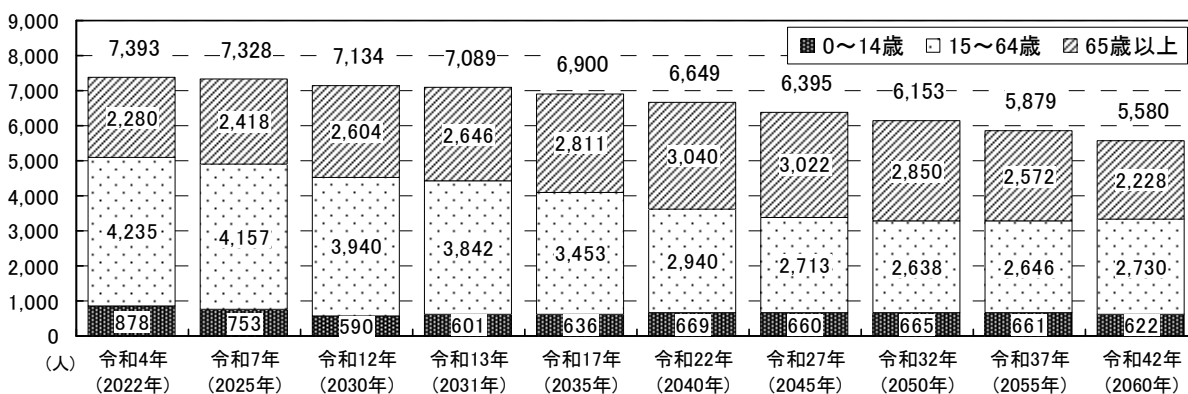
(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	1,204	1,130	1,015	994	913	804	784	776	768	758
15～39歳	1,762	1,733	1,655	1,660	1,682	1,775	1,709	1,574	1,470	1,374
40～64歳	3,070	3,018	2,849	2,779	2,502	2,064	1,832	1,798	1,745	1,813
65～74歳	1,408	1,141	1,096	1,126	1,247	1,349	1,274	1,028	910	777
75歳以上	2,681	2,806	2,610	2,543	2,281	2,154	2,133	2,239	2,234	2,113
計	10,125	9,828	9,225	9,102	8,625	8,146	7,732	7,415	7,127	6,835

⑭ 北陵地区

○一貫して人口減少、高齢化が進む見込みです。また、15歳未満の年少人口は令和12年(2030年)以降横ばい状況で推移するものと考えられます。

北陵地区の将来人口推計



(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	878	753	590	601	636	669	660	665	661	622
15～39歳	1,416	1,447	1,573	1,570	1,557	1,475	1,332	1,145	978	1,031
40～64歳	2,819	2,710	2,367	2,272	1,896	1,465	1,381	1,493	1,668	1,699
65～74歳	1,176	1,095	1,019	1,049	1,170	1,319	1,181	809	539	390
75歳以上	1,104	1,323	1,585	1,597	1,641	1,721	1,841	2,041	2,033	1,838
計	7,393	7,328	7,134	7,089	6,900	6,649	6,395	6,153	5,879	5,580

[参考]

各地区の人口増減比（令和4年=100）

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
久代	100.0	99.0	97.0	96.6	95.1	93.4	91.7	90.1	88.3	85.6
加茂	100.0	98.6	95.9	95.3	92.9	90.1	87.3	84.9	82.3	79.4
川西	100.0	99.1	97.2	96.8	95.2	93.3	91.2	89.2	86.8	83.9
桜が丘	100.0	98.5	94.8	94.0	91.0	87.2	83.3	79.8	76.1	72.2
川西北	100.0	99.8	99.0	98.7	97.8	96.4	94.7	93.2	91.7	89.9
明峰	100.0	98.3	94.3	93.5	90.2	86.9	84.0	81.6	79.0	76.0
多田	100.0	99.2	96.9	96.4	94.0	91.2	88.2	85.5	82.6	79.1
多田東	100.0	99.0	96.6	96.0	93.8	90.9	87.7	84.8	81.9	78.5
緑台・陽明	100.0	96.8	90.8	89.7	85.1	80.1	75.7	72.1	68.8	65.6
清和台・清和台南	100.0	97.2	91.7	90.6	86.2	81.5	77.2	73.6	70.0	66.3
けやき坂	100.0	100.2	99.2	98.9	97.6	95.7	94.1	93.2	92.0	90.3
東谷	100.0	99.2	96.9	96.4	94.1	91.2	88.1	85.3	82.2	78.6
牧の台	100.0	97.1	91.1	89.9	85.2	80.5	76.4	73.2	70.4	67.5
北陵	100.0	99.1	96.5	95.9	93.3	89.9	86.5	83.2	79.5	75.5
全市	100.0	98.6	95.4	94.7	91.9	88.8	85.7	83.1	80.3	77.2

※網掛け太字は80%未満

各地区の15歳未満人口割合の推移

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
久代	13.3%	13.0%	12.0%	12.0%	11.9%	11.3%	11.1%	10.8%	10.6%	10.6%
加茂	11.8%	12.0%	11.6%	11.5%	11.2%	10.8%	10.6%	10.3%	10.1%	10.2%
川西	10.8%	11.0%	11.4%	11.5%	11.8%	11.9%	11.5%	10.9%	10.5%	10.3%
桜が丘	9.0%	9.4%	9.7%	9.7%	9.7%	9.8%	9.5%	9.3%	9.2%	9.3%
川西北	13.6%	14.2%	14.3%	14.0%	12.6%	11.9%	11.4%	10.7%	10.3%	10.3%
明峰	12.4%	11.7%	10.7%	10.7%	10.6%	10.7%	10.8%	10.9%	11.0%	11.1%
多田	11.9%	11.3%	11.0%	10.9%	10.5%	10.3%	10.4%	10.5%	10.5%	10.4%
多田東	11.7%	11.3%	10.6%	10.6%	10.5%	10.6%	10.5%	10.4%	10.3%	10.3%
緑台・陽明	11.1%	10.7%	10.6%	10.6%	10.1%	9.7%	10.0%	10.2%	10.5%	10.7%
清和台・清和台南	9.0%	8.2%	7.8%	8.1%	9.2%	9.9%	10.3%	10.5%	10.5%	10.2%
けやき坂	18.4%	16.3%	11.5%	11.2%	10.4%	11.5%	11.3%	11.5%	12.1%	12.4%
東谷	11.0%	10.2%	10.0%	9.9%	9.8%	10.4%	10.4%	10.3%	10.2%	10.0%
牧の台	11.9%	11.5%	11.0%	10.9%	10.6%	9.9%	10.1%	10.5%	10.8%	11.1%
北陵	11.9%	10.3%	8.3%	8.5%	9.2%	10.1%	10.3%	10.8%	11.2%	11.1%
全市	11.8%	11.3%	10.8%	10.7%	10.6%	10.6%	10.6%	10.5%	10.5%	10.5%

※網掛け太字は10%未満

各地区の65歳以上人口割合の推移

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
久代	26.9%	27.0%	27.4%	28.2%	31.1%	36.0%	37.6%	39.4%	40.7%	41.0%
加茂	30.9%	31.0%	32.1%	32.5%	34.2%	38.2%	39.7%	41.3%	43.0%	44.1%
川西	29.1%	28.8%	29.9%	30.4%	32.6%	37.2%	39.1%	40.6%	41.9%	42.4%
桜が丘	34.1%	34.6%	36.3%	36.7%	38.5%	43.2%	45.8%	47.2%	47.5%	47.4%
川西北	25.9%	26.2%	26.5%	26.8%	28.3%	32.3%	34.2%	37.2%	40.8%	42.5%
明峰	33.6%	33.8%	34.8%	35.2%	36.9%	40.8%	43.2%	42.7%	42.0%	40.0%
多田	29.6%	30.6%	32.7%	33.4%	36.0%	41.3%	43.2%	44.4%	43.6%	42.4%
多田東	30.8%	31.6%	33.1%	33.8%	36.5%	41.0%	43.0%	44.0%	43.4%	42.9%
緑台・陽明	40.9%	41.2%	41.9%	42.1%	43.1%	45.2%	44.9%	44.5%	43.8%	42.1%
清和台・清和台南	40.4%	40.8%	40.8%	41.2%	42.8%	47.4%	47.3%	45.6%	43.6%	40.9%
けやき坂	25.0%	26.3%	27.9%	28.3%	30.0%	34.1%	38.6%	41.9%	41.4%	38.2%
東谷	30.2%	31.3%	33.0%	33.6%	36.4%	41.4%	42.8%	43.1%	43.1%	42.2%
牧の台	40.4%	40.2%	40.2%	40.3%	40.9%	43.0%	44.1%	44.1%	44.1%	42.3%
北陵	30.8%	33.0%	36.5%	37.3%	40.7%	45.7%	47.3%	46.3%	43.7%	39.9%
全市	32.5%	32.9%	33.9%	34.4%	36.4%	40.5%	42.1%	42.8%	42.9%	42.1%

※網掛け太字は40%以上

各地区の75歳以上人口割合の推移

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
久代	16.7%	17.9%	17.9%	17.7%	16.9%	17.5%	21.3%	26.2%	27.5%	28.2%
加茂	19.0%	20.5%	21.2%	20.9%	19.9%	21.1%	23.3%	27.4%	28.8%	29.5%
川西	17.6%	19.0%	19.8%	19.5%	18.2%	19.3%	22.1%	27.0%	28.8%	29.3%
桜が丘	20.6%	22.5%	23.5%	23.4%	23.2%	24.5%	26.8%	31.7%	34.2%	34.8%
川西北	15.7%	16.6%	16.9%	16.9%	16.6%	17.0%	19.0%	22.9%	24.7%	27.0%
明峰	21.2%	23.3%	23.4%	23.2%	22.1%	22.8%	25.0%	29.2%	31.5%	30.3%
多田	16.2%	18.6%	20.9%	20.9%	20.8%	22.1%	24.8%	30.1%	31.8%	32.1%
多田東	16.8%	18.9%	21.3%	21.4%	21.6%	22.4%	25.2%	29.6%	31.5%	31.7%
緑台・陽明	26.3%	28.4%	28.7%	28.5%	27.6%	28.3%	29.7%	32.0%	31.6%	30.7%
清和台・清和台南	24.5%	27.5%	29.1%	28.9%	28.1%	27.0%	28.9%	34.2%	34.6%	32.4%
けやき坂	11.5%	13.8%	17.2%	17.5%	18.6%	19.2%	20.0%	23.4%	27.8%	31.0%
東谷	16.0%	18.7%	21.3%	21.4%	21.6%	22.2%	25.1%	30.0%	31.4%	31.0%
牧の台	26.5%	28.6%	28.3%	27.9%	26.4%	26.4%	27.6%	30.2%	31.3%	30.9%
北陵	14.9%	18.1%	22.2%	22.5%	23.8%	25.9%	28.8%	33.2%	34.6%	32.9%
全市	19.2%	21.3%	22.5%	22.3%	21.8%	22.5%	24.8%	29.0%	30.6%	30.6%

※網掛け太字は25%以上

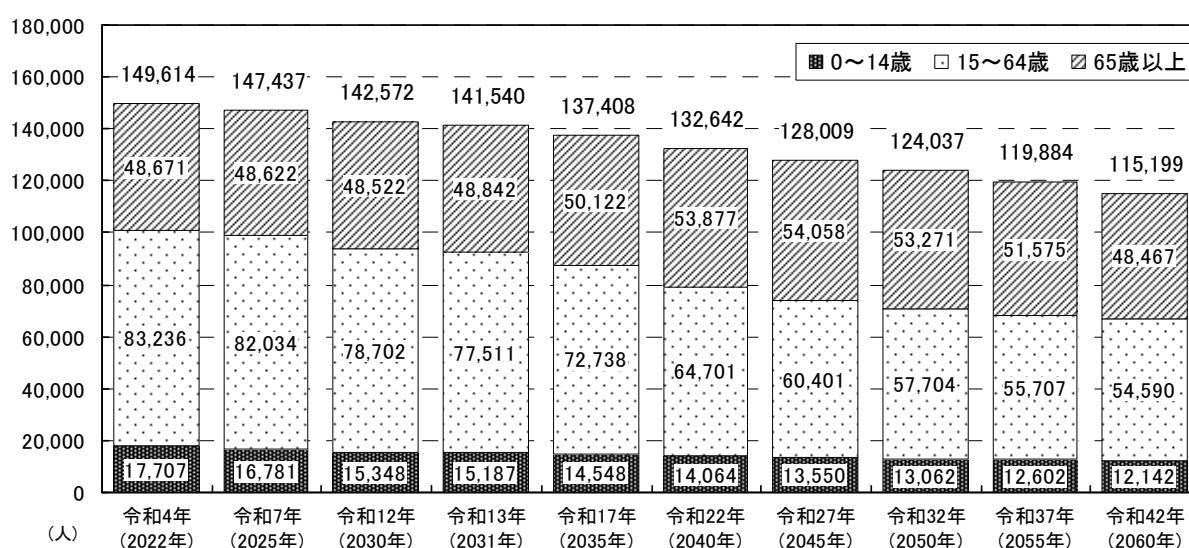
(4) 国籍別推計結果

① 日本人

○川西市全体の日本人人口（平成27年(2015年)と令和2年(2020年)の国勢調査）を基準人口として、地区別推計と同じ手順で推計を行いました。なお、端数処理の関係で、次の外国人人口（国籍不明者を含む）の推計結果と合わせても、地区別推計を積み上げた将来人口推計の結果とは一致しません。

○一貫して人口減少、少子高齢化が進み、令和27年(2045年)以降は65歳以上の老年人口も減少に転じる見込みです。

日本人市民の将来人口推計



(単位：人)

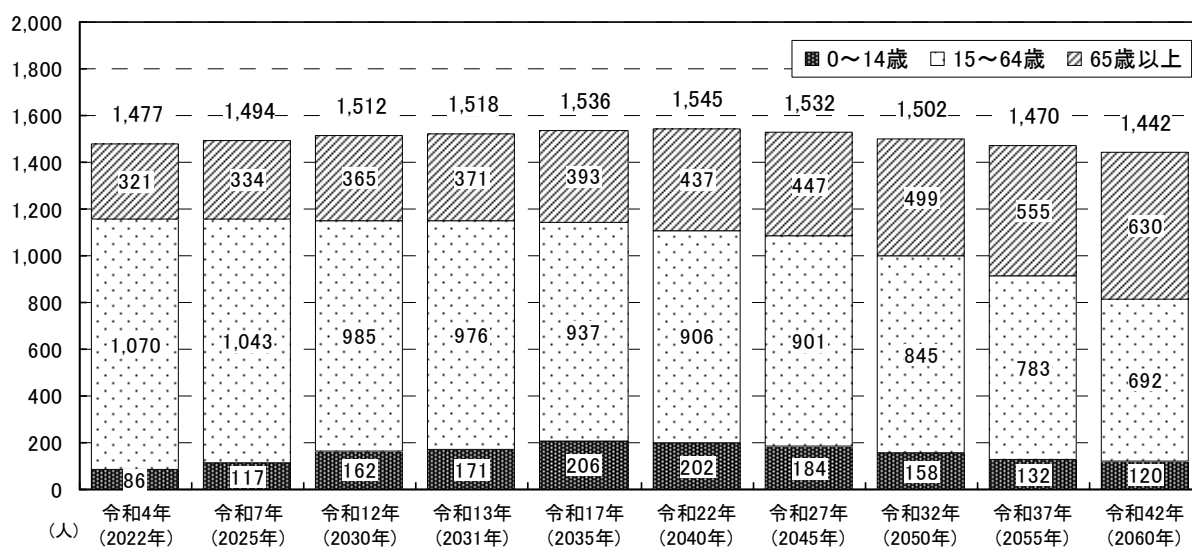
	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	17,707	16,781	15,348	15,187	14,548	14,064	13,550	13,062	12,602	12,142
15～39歳	32,354	31,370	30,419	30,294	29,784	28,128	26,384	24,876	23,356	22,428
40～64歳	50,882	50,664	48,283	47,217	42,954	36,573	34,017	32,828	32,351	32,162
65～74歳	19,808	17,160	16,395	17,118	20,007	23,956	22,219	17,122	14,734	13,047
75歳以上	28,863	31,462	32,127	31,724	30,115	29,921	31,839	36,149	36,841	35,420
計	149,614	147,437	142,572	141,540	137,408	132,642	128,009	124,037	119,884	115,199

② 外国人

○川西市全体の外国人人口（平成27年(2015年)と令和2年(2020年)の国勢調査、国籍不明者を含む）を基準人口として、地区別推計と同じ手順で推計を行いました。「子ども女性比」「0～4歳性比」「生残率」「純移動率」の仮定値も日本人と同じものを準用しています。

○人口は令和22年(2040年)まで緩やかに増加を続け、その後は減少に転じる見込みです。また、15歳未満の年少人口は令和17年(2035年)頃まで緩やかに増加し、65歳以上の老年人口も緩やかに増加していきますが、令和32年(2050年)以降は急増していくものと思われる。

外国人市民（国籍不明者を含む）の将来人口推計



(単位：人)

	令和4年	令和7年	令和12年	令和13年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年
0～14歳	86	117	162	171	206	202	184	158	132	120
15～39歳	603	557	461	439	351	251	198	248	282	313
40～64歳	467	486	524	537	586	655	703	597	501	379
65～74歳	160	159	157	160	170	190	185	203	251	282
75歳以上	161	175	208	211	223	247	262	296	304	348
計	1,477	1,494	1,512	1,518	1,536	1,545	1,532	1,502	1,470	1,442

